

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 愛媛県大洲市

自治体名：愛媛県大洲市

担当課名：大洲市教育委員会スポーツ振興課

電話番号：0893-24-1734

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	432.12 km <sup>2</sup>
人口	39,473 人
公立中学校数	8 校
公立中学校生徒数	1,043 人
部活動数	57 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	推進計画策定済 ガイドライン未策定

(令和6年4月時点)

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子化の進展により当市の人口は急激に減少しており、市内中学校の生徒数が令和6年度では1,043人、令和12年度では818人、12年後の令和18年度は568人となり、45.5%減少する見込みである。

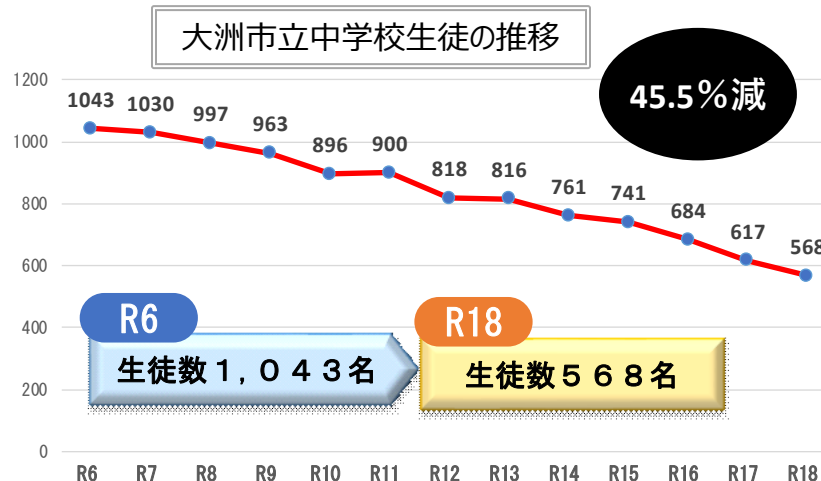
現在、当市の運動部活動は、57部活(運動部42、文化部15)で、運動部は、軟式野球、サッカー、男女バスケットボール、バレーボール、男女ソフトテニス、男女卓球、陸上、水泳の13種目が活動している。

部活動加入率は全体で92%、そのうち運動部は68.9%、文化部は31.1%と高いものの、既に単独でチームを編成できず合同で試合に出場している種目もあり、団体スポーツの将来的な存続は難しくなる

と思われる。

今年度実施した教職員等に対する「中学校部活動の地域移行に関するアンケート」では、部活動を負担に感じている教職員が85.9%と多く、教職員等の働き方改革の推進により、部活動に費やす時間も見直す対象となっている。

これらにより学校での部活動の存続が難しくなることから、地域、学校の連携・協働により、生徒のスポーツ・芸術活動を楽しむ場として、新たな地域クラブ等の受け皿を整備し、地域の実情に応じ、関係者の共通理解のもと、できるところから、できるものから取組みを進めていかなければならない。



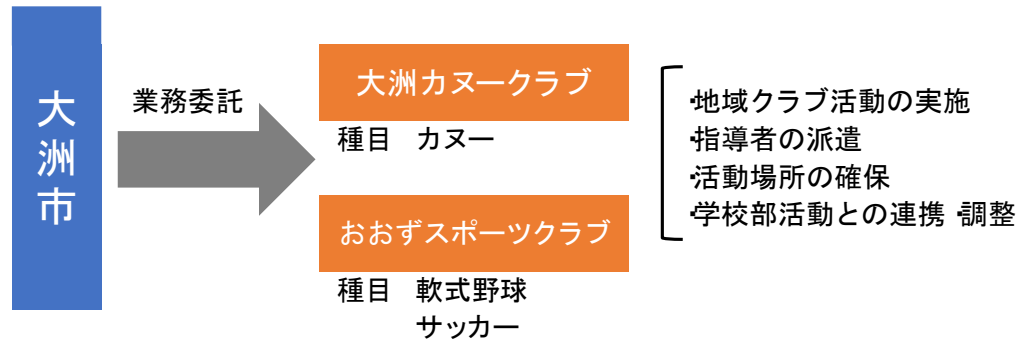
### 【課題】

大洲市の想定外の急激な出生数の減少により、今後、8校の中学校の部活動や学校運営にも大きな影響を及ぼすことが想定される。

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



地域部活動推進協議会の開催  
推進計画の策定・見直し  
保護者説明会の開催  
アンケート調査の実施（教職員等）

#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・スポーツ振興課・・・地域部活動、地域クラブの担当課
- ・教育総務課・・・学校部活動の担当課、学校との調整・連携、学校に関する事項全般

##### ◎首長部局

- ・財政契約課・・・予算措置

### 年間の事業スケジュール

令和6年7月	第1回大洲市地域部活動推進協議会 令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業(県と大洲市の契約)
令和6年8月	令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業(大洲市と地域クラブの契約) 地域クラブ(カヌー)の継続生徒練習
令和6年9月	実証事業参加者募集、保護者説明会の開催 ⇒軟式野球、サッカーの参加者が少ない
令和6年10月	第2回大洲市地域部活動推進協議会 地域クラブ(カヌー)新規生徒の練習開始
令和6年11月	体験会の実施(サッカー・軟式野球)
令和7年1月	地域クラブ(軟式野球、サッカー)練習の開始
令和7年2月	実証事業参加生徒、保護者関係部活動の顧問教諭へのアンケート実施 事業完了報告書・成果報告書等の作成
令和7年3月	第3回大洲市地域部活動推進協議会

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	8校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（5部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	10人	全体の運営スタッフ数	2人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 1回あたり	実施期間	活動場所	指導者数 (概数)	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会 参加方法
大洲カヌークラブ	地域クラブ	カヌー	月20回	適宜	10人未満	R6.8.1～ R7.2.28	肱川	5人	1人	年会費 2,000円	その他：地域 クラブ
おおずスポーツクラブ	総合型 地域スポーツ クラブ	軟式野球	約5回	午前中	10人未満	R6.8.1～ R7.2.28	学校体育 施設	3人	1人 (内、 兼務1人)	年会費 2,000円	参加なし
おおずスポーツクラブ	総合型 地域スポーツ クラブ	サッカー	約5回	午前中	20～30人	R6.8.1～ R7.2.28	体育施設	2人	1人 (内、 兼務1人)	年会費 2,000円	参加なし

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 地域クラブ体験会（軟式野球）11/30、12/7 2回開催
- 地域クラブ体験会（サッカー）12/7 1回開催

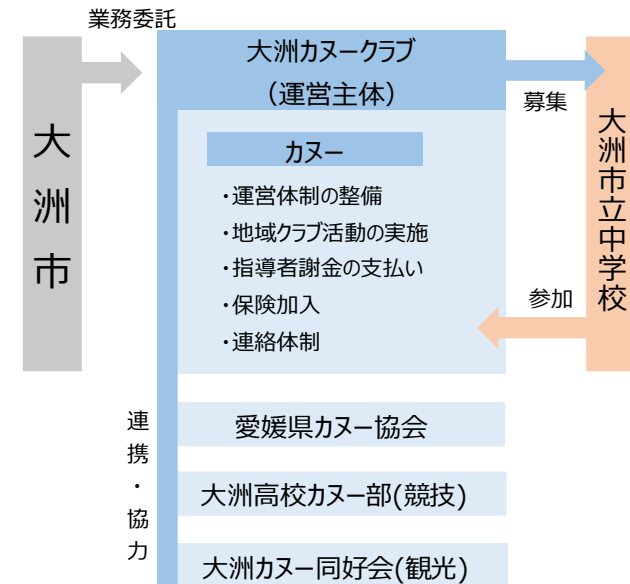
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●大洲カヌークラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	カヌー
運営団体名	大洲カヌークラブ
期間と日数	4月1日～3月31日 うち実証期間 8月1日～2月28日 月20回程度
指導者の主な属性	市・県職員、高校教諭(兼職兼業)
活動場所	肱川、鹿野川ダムほか
主な移動手段	保護者の送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	2,000円 ほか遠征費等は実費
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1名  
役割：活動における管理者として、日程調整、保護者との連携を行う
- 指導者 4名  
役割：生徒への指導を行う
- 安全管理者 1名  
役割：合宿、試合等での活動において、生徒への安全管理を行う

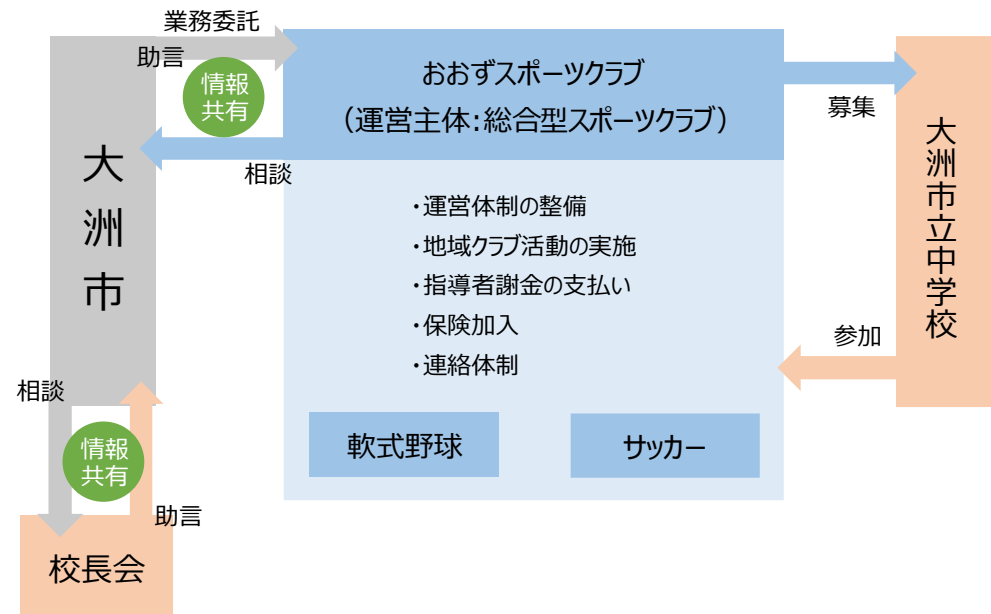
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●おおずスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球 サッカー
運営団体名	おおずスポーツクラブ
期間と日数	8月1日～2月28日 月2回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ、地域の指導者
活動場所	軟式野球：大洲東中 サッカー：徳森公園
主な移動手段	自転車、保護者の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	2,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1名  
役割：活動における管理者として、日程調整、保護者との連携を行う
- 指導者 軟式野球3名、サッカー2名  
役割：生徒への指導を行う

# 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

○大洲市と関係団体が連絡を直接、密に取り合い、それぞれの役割で連絡調整・指導助言等を行った。

○スポーツ少年団の代表、スポーツ推進委員、PTAの代表が集まる会議等において、地域クラブの役割や部活動の地域移行について説明した。

#### 取組の成果

地域クラブが参加者、練習日等の詳細な情報を市に逐次連絡して、その情報を各学校の校長に教職員向け校務支援ツール『ミライム』で情報共有を図ったことから、スムーズな地域クラブの運営ができた。

スポーツ少年団の総会において、代表等に市の現状や取組み等を説明したところ、子どもたちに迫るスポーツ環境の当面の課題を認識していただき、一部では小学生から中学生までが参加できる地域クラブ設立等の気運が高まっており、市への問い合わせが増えた。

#### 【大洲市内のスポーツ少年団の推移】

	H21	H26	R1	R6	H21→R6比較	
					数	割合
単位団数	39	41	29	26	△13	△33.3%
指導者数	194	142	133	113	△81	△41.8%
団員数	1000	717	505	378	△622	△62.2%

#### 【スポーツ少年団総会での説明の様子】



#### その他の地域クラブ活動

実証事業対象外のバレーボール、柔道等の種目でも地域の指導者が地域クラブを創設し、中学校体育連盟に登録し活動しているが、市としての「地域クラブ」の要件や基準等を整備できていないことから、実態やニーズ等の把握ができていない状況である。

#### 今後の課題と対応方針

- 今後、国等が示した地域クラブ活動の要件等を踏まえ、大洲市としての要件や基準等を調整して設定し、地域クラブの登録・指定等を実施する必要がある。
- 認定した地域クラブに対して、施設の利用料免除や助成金の交付などの公的支援の範囲について、財政的な面で調整・協議する必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項

○指導者の資質の向上を図るため、指導者に必要な知識や技能等について研修会及び講習会を実施するとともに、スポーツ関係団体との連携を図り、必要な指導者の確保に向けた取組を進める。

○地域クラブ単位で、講習会等を受講し、レベルアップを図る。

##### 取組の成果

○カヌークラブについては、日本スポーツ協会公認カヌーコーチ 1 養成講座 2 名、愛媛県主催指導者レベルアップセミナー 4 名受講した。

##### 今後の課題と対応方針

○指導者確保のためにスポーツ少年団の指導者等に対し、実情とニーズ調査を実施し、その指導者等に対して研修会又は講習会を開催・案内する必要がある。

ニーズ調査を本年度予定していたが、国から「地域クラブ活動の定義・要件や認定主体、認定方法を示す」との通知があったため、アンケートを次年度に先送りとした。

次年度において国から定義等が示された後、指導者等にアンケートを実施し、研修会等の開催等を検討する。

#### 【中止したアンケート】

##### 中学校部活動の地域移行に向けたスポーツ指導者等に対するアンケート調査

大洲市では、将来的には学校部活動の地域移行を目指しており、子供たちの受け皿となる団体等との連携、助成制度の整備等について検討を進めておりますが、現在の状況、今後の課題等の情報が必要なため、スポーツ少年団の関係者に対しアンケートを実施するものです。

【調査期間】令和6年10月 日から令和6年 月 日まで

【調査対象】スポーツ少年団(代表者、指導者等)

【調査方法】えひめ電子申請サービス

設問	質問内容	選択肢
設問1	所属する単位団(チーム名)を記入してください。	直接入力
設問2	あなたの役職を教えてください。(代表者が指導者を兼ねている場合は、代表者を選択してください)	<input type="checkbox"/> 代表者 <input type="checkbox"/> 指導者 <input type="checkbox"/> その他
設問3	あなたの年代を教えてください。	<input type="checkbox"/> 10～20歳 <input type="checkbox"/> 30～40歳 <input type="checkbox"/> 50～60歳 <input type="checkbox"/> 70歳以上
設問4	現在指導している競技種目は何ですか。	直接入力
設問5	スポーツ少年団を卒団した児童が、中学生でその競技を継続できる環境(部活動、地域クラブ等)が市内にあると思いますか。	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> わからない
設問6	中学校部活動の地域移行についてどう思いますか。	<input type="checkbox"/> 賛成である <input type="checkbox"/> おおむね賛成である <input type="checkbox"/> どちらかという反対である <input type="checkbox"/> 反対である
設問7	現在のスポーツ少年団や新たに地域クラブを創設して、または個人的に、中学生の指導をしてみたいと思いますか。	<input type="checkbox"/> すでにやっている <input type="checkbox"/> 前向きに検討したい <input type="checkbox"/> 条件によっては検討可能 <input type="checkbox"/> やりたくない <input type="checkbox"/> わからない
設問8	地域クラブ等の活動をしていく中で、課題は何だと思いますか。(3つまで選択)	<input type="checkbox"/> クラブ等の運営経費 <input type="checkbox"/> 指導者の確保 <input type="checkbox"/> 指導者の資格 <input type="checkbox"/> 指導者の質、指導方法

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

○カヌークラブは、愛媛県立大洲高等学校のカヌー部と連携し、平日は高校の部活動の練習に参加し、高校教諭や高校生からの指導を受けながら、カヌー専用エルゴメーターや体幹・筋力トレーニングを行った。

○学校部活動に軟式野球、サッカーがあり、学校との連携して進めていくため、学校を訪問し、校長や顧問に対し、市の取組み及び今後の見通し等の説明を行った。

○地域クラブと学校部活動を並行して活動していく中で学校や部活動との調整が課題となってきたことから、市内小中学校の校長で組織する校長会に協力を求めた。

##### 取組の成果

○カヌークラブに参加した生徒に実施したアンケートの結果、回答者の75%が「高校等への進路選択につながった」と回答しており、中学3年生になっても引退せず、地域クラブでの活動を卒業まで続けることができることから、スムーズな高校での競技活動への移行が可能となった。

また、大洲カヌークラブには、小学生も在籍していることから、中学生に進学した際に地域クラブ活動に参加する環境づくりが構築されている。

○地域クラブが学校部活動の顧問と連携し、調整がしやすいように、市から校長会に地域クラブからの情報を共有し、随時、相談や要望を行ったことで、学校部活動と地域クラブの相互の活動を無理なく実施することができた。

##### 今後の課題と対応方針

○中学校を含め、競技団体や総合型スポーツクラブ等が良好な関係性を築き、更なる連携強化を図る必要がある。

○運営の効率化を図るため、情報の共有方法、手段について検討する。



【カヌークラブの練習（世代間交流）】

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

#### 取組事項

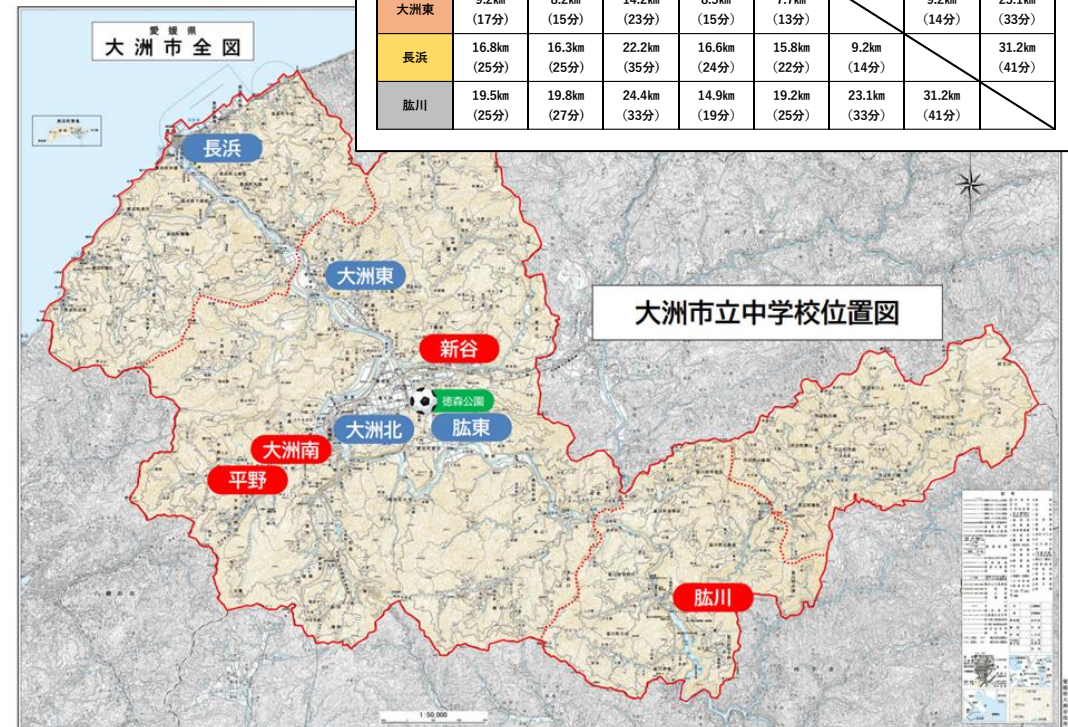
○カヌー、軟式野球、サッカーの全クラブの参加者を、3年生も含めて大洲市立中学校の全生徒に対して募集を行った。  
 ○サッカーは、学校部活動にサッカーがある4校のすべてから参加があったことから、中間地点である徳森公園多目的グラウンドで活動した。

#### 移動手段

○主な移動手段は、保護者による送迎  
 ○練習場所が自宅から近い場合は、自転車又は徒歩

#### 今後の課題と対応方針

大洲市全体では、一番離れている学校間の距離が31.2kmもあることから、1か所に集まって活動することは困難である。中学校をエリア分けし、そのエリア毎に地域クラブの活動を行う方法もあるが、実情からエリア分けも難しい。  
 1つの地域クラブで、各学校のグラウンドを順番に練習場所とし、「来れる場所での活動のときに参加する」というような柔軟な実施方法も検討する。



中学校名	大洲南	大洲北	平野	肱東	新谷	大洲東	長浜	肱川
大洲南	-	2.3km (6分)	5.2km (12分)	5.1km (10分)	7.3km (17分)	9.2km (17分)	16.8km (25分)	19.5km (25分)
大洲北	2.3km (6分)	-	7.6km (19分)	6.5km (11分)	6.3km (13分)	8.2km (15分)	16.3km (25分)	19.8km (27分)
平野	5.2km (12分)	7.6km (19分)	-	10.1km (17分)	14.4km (23分)	14.2km (23分)	22.2km (35分)	24.4km (33分)
肱東	5.1km (10分)	6.5km (11分)	10.1km (17分)	-	5.0km (11分)	8.5km (15分)	16.6km (24分)	14.9km (19分)
新谷	7.3km (17分)	6.3km (13分)	14.4km (23分)	5.0km (11分)	-	7.7km (13分)	15.8km (22分)	19.2km (25分)
大洲東	9.2km (17分)	8.2km (15分)	14.2km (23分)	8.5km (15分)	7.7km (13分)	-	9.2km (14分)	23.1km (33分)
長浜	16.8km (25分)	16.3km (25分)	22.2km (35分)	16.6km (24分)	15.8km (22分)	9.2km (14分)	-	31.2km (41分)
肱川	19.5km (25分)	19.8km (27分)	24.4km (33分)	14.9km (19分)	19.2km (25分)	23.1km (33分)	31.2km (41分)	-

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実

##### 取組事項

○実証事業に参加した中学生、保護者、学校部活動の顧問に対して、実証事業終了後、アンケートを行った。

○「カヌー」を通して郷土に誇りや愛着をもつ人材を育てる。

##### 取組の成果

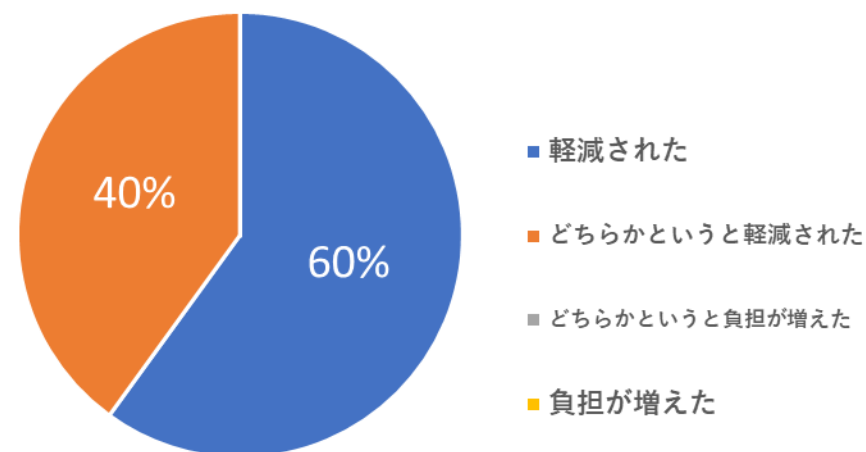
○参加した中学生43人を対象としたアンケートの結果、回答者の76.5%が次年度も地域クラブに参加したいと回答し、今後の地域クラブの活動計画や方向性を考えていくため、地域クラブのチーム等で大会や試合に参加したいか聞いたところ、半分は練習のみでかまわないという結果であった。中学生は、学校部活動での活動がメインであるという思いが強く、「休日の部活動の代わりに地域クラブに参加している」と捉えていると推測する。

○地域クラブに生徒が参加した学校部活動の教員5人を対象としたアンケートでは、生徒が地域クラブに参加したことで、業務負担の軽減につながったと全員が答えており、軽減した理由に「本来の教員の業務に時間が取れた」、「休日に休むことができた」などを挙げている。

回答した全員が次年度以降の地域クラブ活動の継続を希望しており、ほかに「専門的な指導により、部員の技能の向上につながった」、「地域クラブで大会等にでられるようにしてほしい」などの意見があった。

##### 【部活動顧問】

生徒が地域クラブ活動に参加したことで、業務の負担軽減につながりましたか？



○カヌークラブについては、引き続き高校生との合同練習を行い、合宿や大会出場を積極的に行いながら、カヌー競技の経験者を地元で育て、増やし、「カヌー」が地域の資源である肱川を活かした、地域に根差した地域スポーツとして確立される一助となっている。

##### 今後の課題と対応方針

○生徒の多様なニーズに応じた取組の検討が必要であることから、小中学生及び保護者へのアンケートが必要である。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

#### 取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行っていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行った。

○実証事業であることを踏まえ、公平性の観点からすべての地域クラブ2,000円/年間で統一した。

#### 地域クラブに係る経費

#### ■ランニングコストの分析

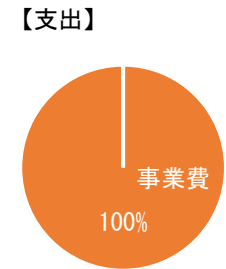
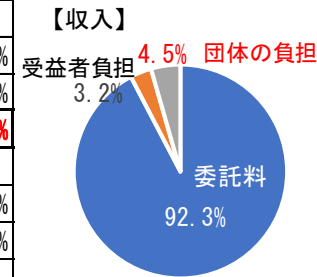
3つの地域クラブで計上されたランニングコストは、指導者謝金、消耗品費、クラブ事務局の人件費、会場使用料であった。

費目	カヌー	軟式野球	サッカー
指導者謝金	153,600	96,000	52,800
消耗品費	123,420	52,286	124,568
事務局人件費	0	103,000	112,000
会場使用料	0	0	3,900
合計	277,020	251,286	293,268

### 収支バランス

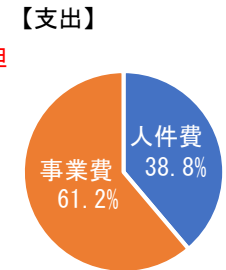
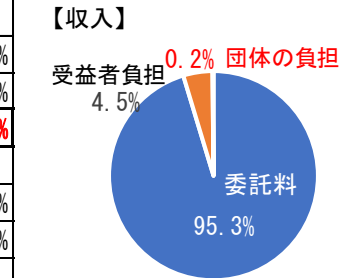
#### 【カヌー】

	費目	金額	割合
収入	委託料	400,000	92.3%
	受益者負担	14,000	3.2%
	<b>団体の負担</b>	<b>19,269</b>	<b>4.5%</b>
	合計	433,269	-
支出	人件費	0	0.0%
	事業費	433,269	100.0%
	合計	433,269	-



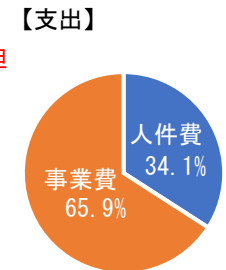
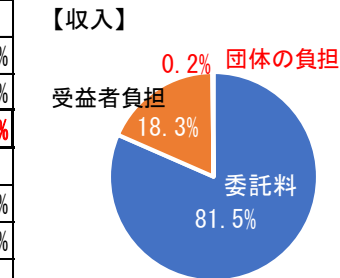
#### 【軟式野球】

	費目	金額	割合
収入	委託料	253,000	95.3%
	受益者負担	12,000	4.5%
	<b>団体の負担</b>	<b>408</b>	<b>0.2%</b>
	合計	265,408	-
支出	人件費	103,000	38.8%
	事業費	162,408	61.2%
	合計	265,408	-



#### 【サッカー】

	費目	金額	割合
収入	委託料	268,000	81.5%
	受益者負担	60,000	18.3%
	<b>団体の負担</b>	<b>580</b>	<b>0.2%</b>
	合計	328,580	-
支出	人件費	112,000	34.1%
	事業費	216,580	65.9%
	合計	328,580	-



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

##### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続可能な運営形態を構築するために受益者負担は必要不可欠である。今回の実証事業により要した経費を、申込者数毎の受益者負担額の試算を行った。

##### ①スポーツ活動費全額を受益者負担とする場合

申込者数	受益者負担月額		
	カヌー	軟式野球	サッカー
20名	2,975円	3,801円	4,684円
40名	1,487円	1,901円	2,342円
60名	992円	1,267円	1,561円

##### ②指導者の謝金のみを受益者負担とする場合

申込者数	受益者負担月額		
	カヌー	軟式野球	サッカー
20名	1,097円	2,400円	1,320円
40名	549円	1,200円	660円
60名	366円	800円	440円

##### ③全額を受益者負担とする場合

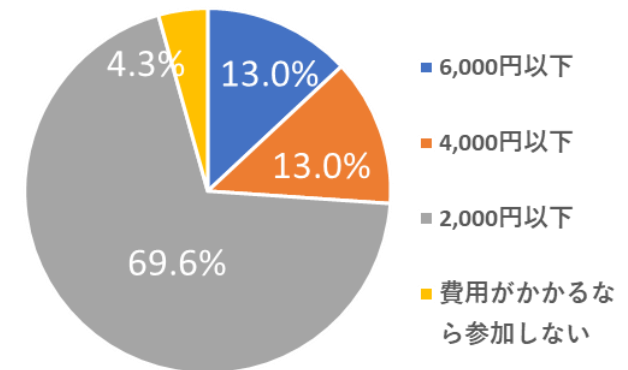
申込者数	受益者負担月額		
	カヌー	軟式野球	サッカー
20名	2,975円	6,376円	7,522円
40名	1,487円	3,188円	3,761円
60名	992円	2,125円	2,507円

#### 取組の成果

実証であることから公平性を図るため、保険料を含め1人当たり2,000円/年間の受益者負担金を集金したことにより、保護者の負担は軽減された。

参加した生徒の保護者に実施したアンケートでは、月額2,000円以下の負担であれば参加してもよいという回答が最も多かった一方で、費用がかかるなら参加しないという意見もあった。

【保護者アンケート】  
 参加費用が1か月あたりいくらであれば、参加してもよいと思いますか。



#### 今後の課題と対応方針

スポーツ活動費に絞って、参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた時にあやうい。低廉な受益者負担を求めたうえで、少なからず行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

#### 資料

#### 【カヌー】

①活動月数	7か月
②申込者数	7名
③延べ参加者数	345名

項目	費用	割合
スポーツ活動費	416,469	96.1%
諸謝金	153,600	35.4%
旅費	139,449	32.2%
会場使用料	0	0.0%
消耗品費	123,420	28.5%
雑役務費	0	0.0%
スポーツ活動費(保険料)	16,800	3.9%
生徒	7,550	1.8%
指導者等	9,250	2.1%
事務局運営費	0	0.0%
人件費	0	0.0%
振込手数料	0	0.0%
合計	433,269	-

→自己負担

→別財源

	受益者負担月額	1回の単価	別財源額
①スポーツ活動費全額を受益者負担とする場合	8,499円	1,207円	0円
②指導者の謝金のみを受益者負担とする場合	3,135円	445円	262,869円
③全額を受益者負担とする場合	8,499円	1,207円	0円

#### 【軟式野球】

①活動月数	2か月
②申込者数	6名
③延べ参加者数	27名

項目	費用	割合
スポーツ活動費	152,058	57.3%
諸謝金	96,000	36.1%
旅費	0	0.0%
会場使用料	0	0.0%
消耗品費	52,286	19.7%
雑役務費	3,772	1.4%
スポーツ活動費(保険料)	10,350	3.9%
生徒	4,800	1.9%
指導者等	5,550	2.1%
事務局運営費	103,000	38.8%
人件費	103,000	38.8%
振込手数料	0	0.0%
合計	265,408	-

→自己負担

→別財源

	受益者負担月額	1回の単価	別財源額
①スポーツ活動費全額を受益者負担とする場合	12,672円	5,631円	103,000円
②指導者の謝金のみを受益者負担とする場合	8,000円	3,556円	159,058円
③全額を受益者負担とする場合	21,255円	9,447円	0円

#### 【サッカー】

①活動月数	2か月
②申込者数	30名
③延べ参加者数	79名

項目	費用	割合
スポーツ活動費	187,360	57.0%
諸謝金	52,800	16.0%
旅費	0	0.0%
会場使用料	3,900	1.2%
消耗品費	124,568	37.9%
雑役務費	6,092	1.9%
スポーツ活動費(保険料)	27,700	8.4%
生徒	24,000	7.4%
指導者等	3,700	1.1%
事務局運営費	113,520	34.5%
人件費	112,000	34.1%
振込手数料	1,520	0.5%
合計	328,580	-

→自己負担

→別財源

	受益者負担月額	1回の単価	別財源額
①スポーツ活動費全額を受益者負担とする場合	3,123円	2,371円	113,520円
②指導者の謝金のみを受益者負担とする場合	880円	668円	248,080円
③全額を受益者負担とする場合	5,015円	3,809円	0円

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

#### 取組事項

軟式野球は、参加申し込みのあった生徒が所属する学校が1校であったことから、生徒や保護者の負担を軽減するため、生徒が通う中学校グラウンドを学校開放により利用申請を行った。

2月からは「えひめ施設予約システム」が大洲市の学校体育施設に導入されたことから、今後は、効率的な学校施設の予約・利用が可能となる。

#### 取組の成果

軟式野球については、大洲東中学校のグラウンドを利用したことで、生徒も参加しやすく、保護者の送迎の負担もなかった。

学校部活動の顧問とも学校施設の利用状況を共有し、効率的に施設の予約ができた。

今後は、施設予約システムを活用して予約することが可能となり、鍵の管理についてもスマートロック等により鍵の受け渡しが無くなることから、地域クラブの業務の軽減となる。

#### 今後の課題と対応方針

将来的に地域クラブが増えてきた場合、練習場所と併せて設備や備品が不足していくことが予想される。地域クラブが公平に利用できるよう、現状の把握と計画的な整備が必要である。

■学校体育施設利用の手続等イメージ

現行	シーン	導入後
<p>利用者 施設管理先へ電話等で確認</p>	予約状況の確認	<p>利用者 スマホ等で予約状況を確認</p>
<p>利用者 施設管理先へ出向いて申請書記入、学校で許可を受ける</p>	利用申請	<p>利用者 そのままスマホ等で予約</p>
<p>利用者 施設管理先へ出向いて鍵を受領</p>	鍵の受渡し	<p>利用者 メールでパスワードが届く</p>
<p>利用者 開錠し、施設を利用</p>	施設利用	<p>利用者 スマートロック 鍵ボックス 届いたパスワードで現地のスマートロック又は鍵ボックスを開錠し、施設を利用</p>
<p>利用者 施設管理先へ出向いて鍵を返却</p>	鍵の返却	<p>利用者 スマートロック 鍵ボックス 現地のスマートロック又は鍵ボックスに鍵を戻し、施錠して完了</p>

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

当初、数年後には部活動を地域クラブ活動へ完全移行することとし、公認地域クラブの拡大を推進するという内容の「中学校部活動の地域移行」の方針(案)等について「大洲市地域部活動推進協議会」に提案し、協議を行っていた。

しかしながら、国の「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」中間とりまとめを受け、本市としての方向性を再考するべきであるとの声が高く、協議を一旦中断することとなったため、来年度以降、改めて本市の地域展開の方向性、スケジュール等の協議を行い、推進計画の見直しが必要となる。

実証事業については、カヌークラブは、昨年度から参加している生徒が4月から活動しており、小学校から高校まで一貫した競技が継続できる環境が構築され、カヌーを通じた地域振興の取組みも実施している。

学校と連携して行う地域クラブ活動である軟式野球クラブ、サッカークラブは、当初、参加者が少なかったことから、種目ごとに軟式野球2回、サッカー1回の体験会を実施した。体験会で事業の趣旨等を保護者に説明した結果、活動が可能な人数が集まり、予定より事業期間が短くはなったが、それぞれ5回ずつの練習ができた。

実証事業に参加した中学生、その保護者、また、学校部活動の顧問にアンケート調査を行い、課題や今後の改善点を洗い出した。

#### ●成果の評価

実証事業については、参加した中学生43人を対象としたアンケートの結果、回答者の72.2%が次年度も地域クラブに参加したいと回答した。

カヌークラブについては、引き続き高校生との合同練習を行い、合宿や大会出場を積極的に行いながら、カヌー競技の経験者を地元で育て、増やし、「カヌー」が地域の資源である肱川を活かした、地域に根差した地域スポーツとして確立される一助となっている。

軟式野球・サッカークラブについては、地域クラブに生徒が参加した学校部活動の教員5人を対象としたアンケートでは、生徒が地域クラブに参加したことで、業務負担の軽減につながったと全員が答えており、軽減した理由に「本来の教員の業務に時間が取れた」、「休日に休むことができた」などを挙げている。「専門的な指導により、部員の技能の向上につながった」、「地域クラブで大会等にでられるようにしてほしい」などの意見もあり、回答した全員が次年度以降の地域クラブ活動の継続と早期の休日の地域クラブ移行を希望している。

#### ●今後に向けて

学校と連携して行う地域クラブ活動は、総合型スポーツクラブと連携し、休日の部活動の地域展開に向けての体制、基盤づくりを進める。

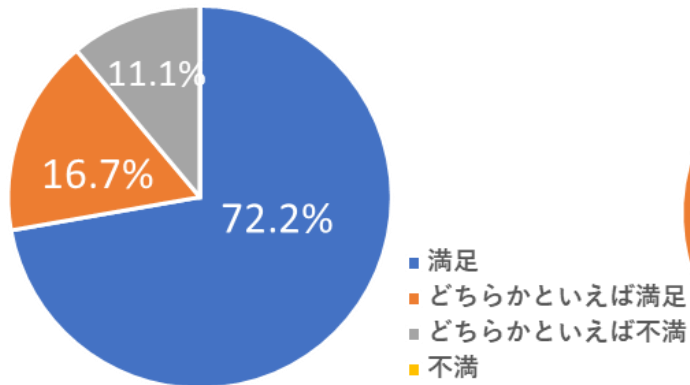
生徒の多様なニーズに応じた取組の検討が必要であることから、小中学生及び保護者へのアンケート調査を実施する。

## アンケート結果・参加者の声

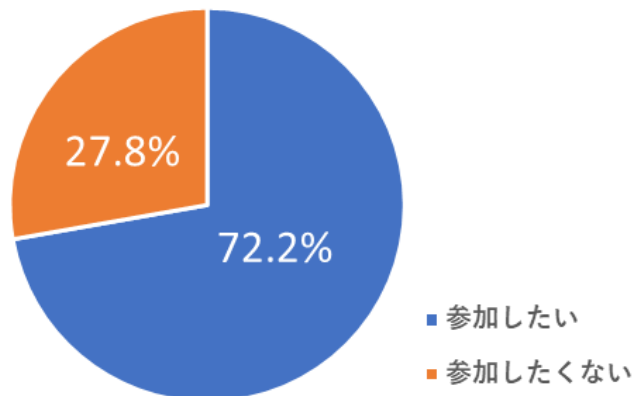
### ●アンケート結果

#### 【中学生】

Q.参加してみた満足度を教えてください?

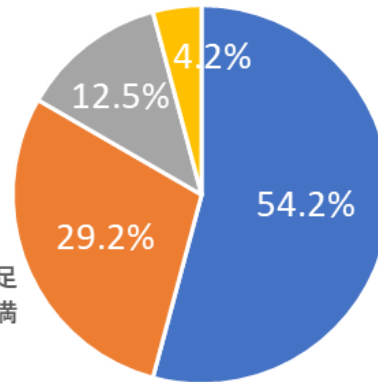


Q.来年も参加したいですか?

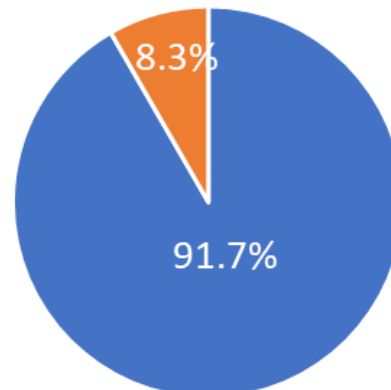


#### 【保護者】

Q.子どもさんの様子から、保護者の満足度を教えてください?



Q.子どもさんが希望されたら、来年度も参加させたいですか?



### ●参加者の声

#### 中学生

ほかの学校の友達と一緒にサッカーができて楽しかった。このチームで大会等にでてみたい。

#### 中学生

元日本代表や国体に出場した選手から指導を受けることができうれしい。カヌーが好きなので、高校生になっても続けたい。

#### 保護者

カヌーが大好きになり、毎日充実した中学生を送っています。地域クラブに移行の年に中学生となり難しい時期ですが高校生やコーチ、監督との関わりから、色々なことを学び成長できているなど本当に嬉しく思っています。

#### 保護者

移行期の数年間は学校と連携してもらいたい。毎回送迎が難しいので、学校又は送迎バスがあれば本当に助かります。

#### 学校部活動の顧問

業務の負担軽減になったとともに、部員の技能の向上につながった。年間を通じての実証ができればよいと思います。

## 2.実証内容と成果③

### アンケート結果・広報資料

中学校3年生も含め、大洲市立中学校に通う全中学生に対してチラシを配布し、電子申請システムも利用して募集を行った。  
また、学校部活動の実情の把握と教員の意識調査のため、全小中学校教職員に対し、アンケートを実施した。

令和6年度  
地域スポーツクラブ活動体制整備事業  
(地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業)

### 参加者募集

部活動は、これまで学校教育の一環として行われ、大きな意義や役割を果たしてきましたが、少子化の影響や学校の働き方改革等により、現在の部活動の形態を継続していくことは難しくなっています。大洲市では、子供たちのスポーツ文化活動に親しい環境を維持するため、「部活動改革」を推進し、部活動を地域クラブ等へ地域移行することを目指しています。この事業は、部活動の受け皿となる地域クラブの運営等について、モデル事業として実際に活動し検証するためにあります。

年度	大洲市中	大洲南中	平野中	陸奥中	新谷中	大洲北中	民浜中	飯川中
R6	61	187	37	93	107	390	117	51
R18	20	132	20	34	56	269	22	15

※参考 全校生徒数の推移

**募集内容**

平日は、所属する学校で部活動を行いながら、休日(土・日等)は、地域クラブ等へ参加してみませんか。学校で部活に入っても参加することができます。

**こんな人におすすめ**  
土、日の練習をもっとやりたい！  
学校の部活から卒業してみたい！  
高校でやりたいから積極的に！  
部活だけでなく、やってみよう！

参加対象	大洲市立中学校に通う全生徒
実施種目及び実施団体	カヌー(大洲カヌークラブ) 軟式野球、サッカー(NPO法人おおすスポーツクラブ)
活動期間	令和6年10月から令和7年2月(10回程度) 土曜日または日曜日(1回約3時間)
参加費用	1種目1人あたり2,000円(スポーツ安全保険を含む)
実施場所	飯川橋付近、大洲球場、徳森運動公園ほか
移動手段	徒歩、自転車、保護者の送迎等により、各自で練習場所に集合していただきます。
指導者	地域スポーツクラブ等の指導者、地域の指導者等
申し込み方法	裏面の参加申込書を学校に提出 または 電子申請サイトから申し込んでください。 (スひめ電子申請システム) ※競技を担当する実施団体に直接申し込みでもかまいません。
申し込みの期	令和6年9月30日 ※締切後も随時参加できますが、申込み先は直接、実施団体になります。
保護者説明会の開催	大洲市の現状、本モデル事業の詳細、応募方法等について広く知っていただくため、保護者を対象に説明会を開催しますので、ぜひ参加ください。 (日時)令和6年9月26日(木) 18:30~ (場所)大洲市役所別館3階第1会議室

※競技等に関する問い合わせは、下記の実施団体までご連絡ください。  
 ≪カヌー≫大洲カヌークラブ 090-3787-9198  
 ≪軟式野球・サッカー≫NPO 法人おおすスポーツクラブ 24-7228

【この事業の問い合わせ先】大洲市教育委員会スポーツ振興課 24-1734

令和6年度 大洲市地域クラブ等活動参加申込書

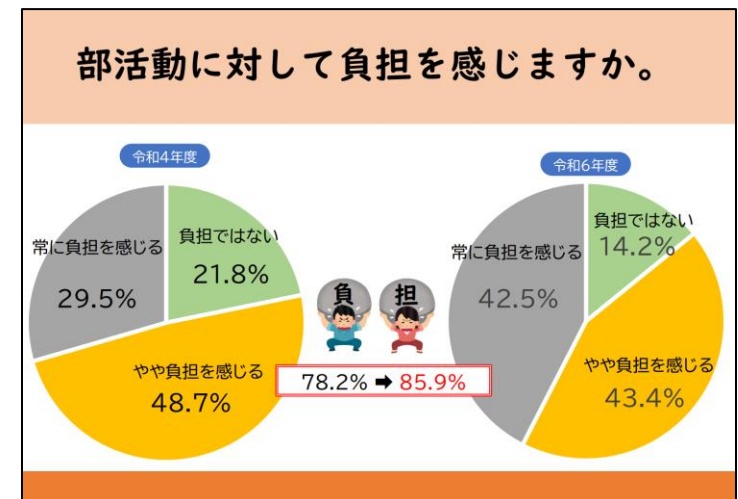
種目	カヌー ・ 軟式野球 ・ サッカー <small>※希望する種目を○で囲んでください。</small>
学校名 学年	中学校 年
ふりがな	
生徒氏名	性別 男・女
生年月日	西暦 年 月 日 年齢 才
保護者氏名	
住所	〒795 -
電話番号	自宅: 携帯電話(保護者):
備考	

【注意事項】  
必ず保護者の了承を得て申し込みをしてください。  
練習日程等の詳細については、申し込み後、実施団体から連絡します。  
申込により収集した個人情報等は、この実証事業以外で利用することはありません。

## 「中学校部活動の地域移行」に関するアンケート結果

【中学校教職員等】

実施期間:令和6年9月20日~27日  
対象者:大洲市立中学校教職員等 108名  
回答者106名 回答率98.1%



【生徒への参加啓発、参加者募集チラシ】

【小中学校教職員に対するアンケートの実施】

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【サッカー体験会の実施】



【カヌークラブの練習】



【サッカークラブ練習の様子】



【軟式野球クラブ練習の様子】

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ●ステークホルダー

学校、競技団体  
総合型スポーツクラブ  
市教委

#### ●経過

令和5年度より検討委員会、推進協議会を設置し、既に大洲市内で活動していた総合型地域スポーツクラブ「おおずスポーツクラブ」と「大洲カヌー協会」の2つの団体を運営団体とした地域クラブ体制を継続し、まずは、休日におけるスポーツ環境の構築を進める。令和5年度には推進計画を策定し、随時見直しを行うこととした。

令和6年度は、学校部活動の実情と教職員の意向を把握するため、全小中学校教職員に対して、「大洲市地域部活動の地域移行」に関するアンケートを実施し、教職員の働き方改革の推進のためにも「地域移行」の早期実現が必要であることが明確となった。

#### 実施にあたって生じた課題

部活動と地域クラブを並行して実施したことで、団体スポーツにおいて、

単独でチームが編成できる学校部活動と、複数の学校部活動の生徒が集まって編成したチームでは、受益者負担や練習場所までの送迎を保護者が行わなければならないなどの負担の格差が生じた。

また、種目によっては指導者の不足が大きな課題として指摘されている。スポーツ少年団も指導者不足問題が生じており、地域の指導者の発掘が不可欠である。現在は、地域クラブごとに募集を行っているが、今後、人材バンク等の指導者登録制度の制度整備も検討が必要である。地域クラブの要件、基準等が整備されていないことから、地域で設立されているスポーツクラブ等の情報の把握ができておらず、支援等ができていない状況である。

#### 今後の展開

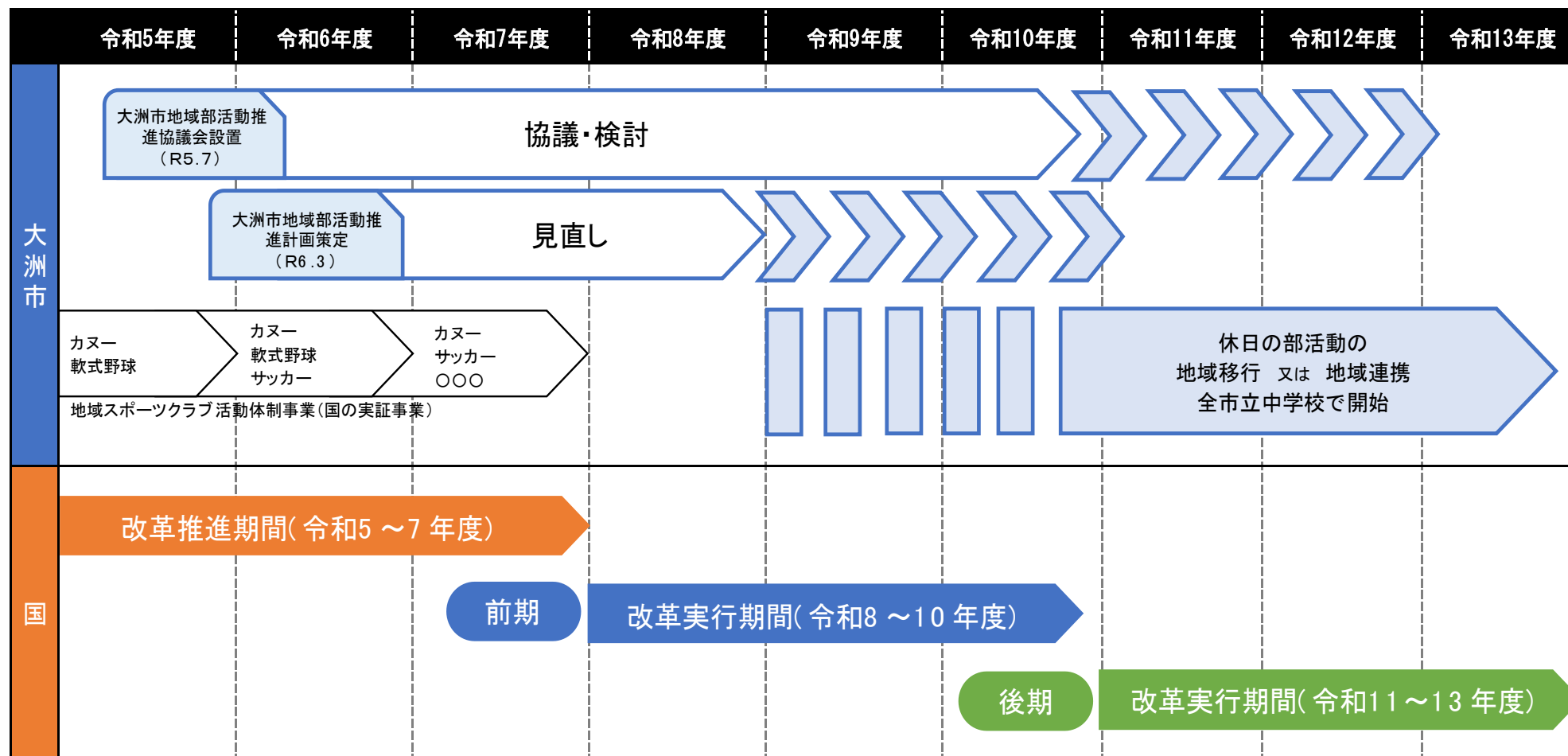
可能な種目から順次地域クラブの創設を推進し、令和13年度までには、市内すべての中学校において、休日の地域クラブ活動を毎週実施する。また、持続可能な地域クラブ運営とするために、受益者負担を継続する。保護者の理解を得るために、地域クラブの紹介動画やパンフレットを作成し、受益者負担の必要性について説明する。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

大洲市における学校部活動及び地域展開 案)

※令和7年度以降に再協議



令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 愛媛県西予市

自治体名：愛媛県西予市

担当課名：西予市教育委員会学校教育課

電話番号：0894-62-6414

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	5 1 4 km <sup>2</sup>
人口	3 3,7 2 1 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	7 9 0 人
部活動数	4 0 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

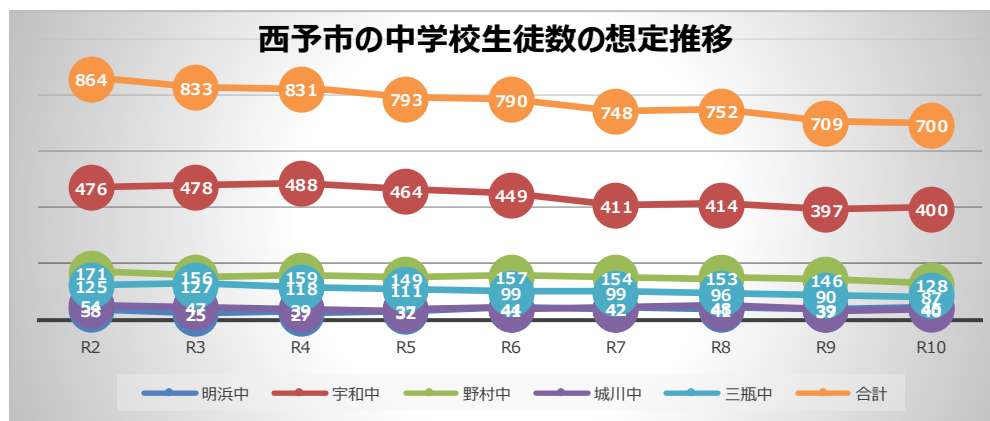
本市の中学校 5 校の生徒数は減少傾向にある。生徒数の減少に合わせて、運動部、文化部とも部員数が減少している。また、生徒数の減少ほど、部活動数が減少していないことから、各学校における部員数の確保が少しずつ厳しさを増している。そのことが要因となり、ここ数年で募集を停止した部活動や、廃部となった部活動がある。そのため、部活動の選択肢がほぼない学校があったり、小規模校において生徒たちの希望する部活動がなかったりするという状況が生まれている。運動部の団体競技においては、部員不足のため、単独校で公式戦に出場できず、合同

で部活動に取り組んだり、個人戦のみに出場したりする部活動もある。今後、少子化の進行とともに部活動において同様の傾向が進むと考えられ、現状の部活動の体制の維持は難しくなることが考えられる。

### 【本市の課題】

- ① 専門外の指導を必要とされる教職員の部活動指導
- ② 生徒にとって望ましい活動の提供が困難
- ③ 画一的な地域移行モデルの確立が困難
- ④ 地域クラブ活動指導者・運営団体の確保

### 西予市の中学校生徒数の想定推移

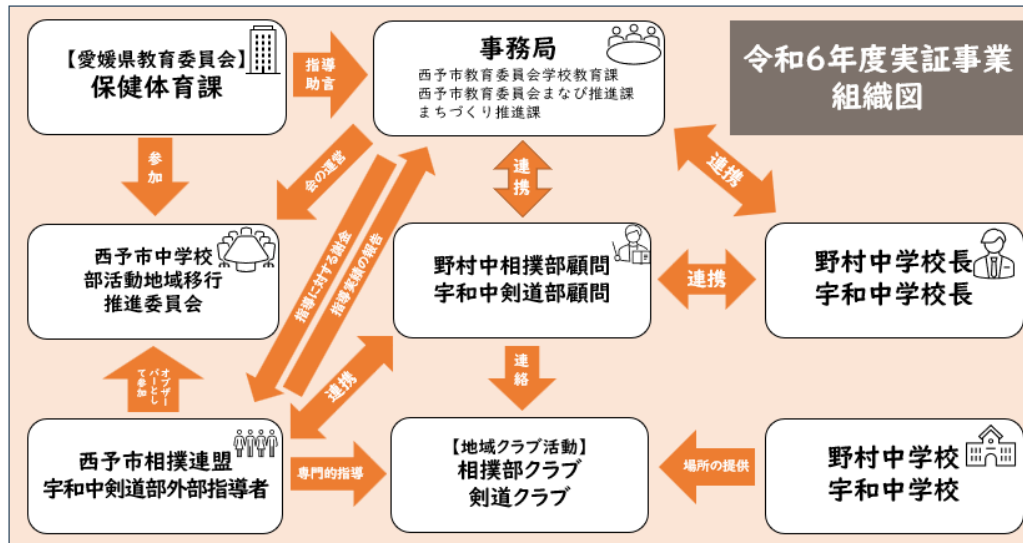


R10年度生徒数は、R2年度生徒数に比べて164名（19%）減少する見込みである。

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動改革の主管、実証事業を実施する当該クラブとの連絡・調整  
推進委員会の設置・運営
- ・まなび推進課…PTAとの連絡・調整

##### ◎首長部局

- ・まちづくり推進課…地域スポーツクラブ・文化芸実活動クラブとの連絡・調整

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	準備委員会（事務局打合）
5月	指導者講習会
6月	準備委員会（事務局打合）
7月	第1回委員会の開催
8月	準備委員会（事務局打合）
9月	準備委員会（事務局打合） モデル部活動関係者説明会 休日のクラブ活動開始
10月	中学校長との連絡会 準備委員会（事務局打合）
11月	準備委員会（事務局打合） 第2回委員会の開催
12月	平日のクラブ活動開始 各中学校へのヒアリング 準備委員会（事務局打合）
令和7年1月	準備委員会（事務局打合） 第3回委員会の開催 各中学校新入生説明会
2月	実証事業終了 実証事業関係者アンケート

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（2部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	5人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
野村相撲クラブ	競技団体（西予市相撲連盟）	相撲（新）	月4回	休日午前中	1年1名 2年3名 3年4名	令和6年9月～令和7年2月	西予市立野村中学校相撲場	3人	5人 (内、兼務5人)	月会費0円	中体連：部活動 その他：部活動
宇和剣道クラブ	剣道連盟所属外部指導者	剣道（新）	月4回	休日午前中	1年6名 2年8名 3年0名	令和6年9月～令和7年2月	西予市立宇和中学校剣道場	3人	5人 (内、兼務5人)	月会費0円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

●実証事業期間後半となる令和7年1・2月にモデル部活動体験会を企画し、12月に市内中学校保護者宛に、連絡アプリで開催を周知した。しかし、参加希望はなかったため、実施をしていない。

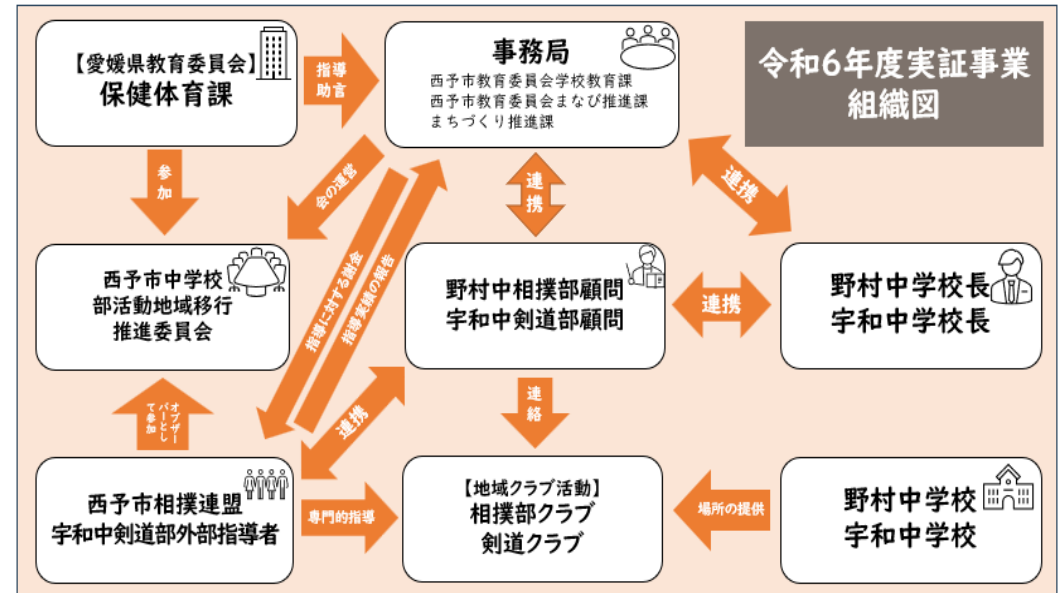
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道、相撲
運営団体名	西予市教育委員会学校教育課
期間と日数	剣道：9月14日～2月16日 月4回程度 相撲：9月21日～2月1日 月4回程度
指導者の主な属性	競技連盟指導者、競技経験者
活動場所	剣道：西予市立宇和中学校剣道場 相撲：西予市立野村中学校相撲場
主な移動手段	徒歩・自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	剣道：0円 相撲：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,200円/年 1,850円/年

#### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

##### ●事務局 5名

役割：指導者費（諸謝金）をはじめとする予算管理・対応  
スポーツ安全保険加入および事故対応  
実証事業に係る計画立案・報告

##### ●地域指導者 各クラブ3名

役割：クラブ生に対する専門的な指導  
：学校との連携（指導方針・練習内容・練習計画等の共有）  
：指導実施整理簿の作成・提出

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

##### 指導者研修の内容

愛媛県総合教育センターの指導主事を講師として迎え、「中学生の部活動指導にあたって大切にしたいこと」と題して、講演をしていただいた。

最初に、「学校部活動及び新たな地域部活動等のあり方に関する総合的なガイドライン」について触れられ、**どのような目的で、どのような姿を目指して部活動の地域移行が行われていくべきかという共通認識**を持つことができた。

後半は、「**部活動の意義**」「**部活動の運営**」「**部活動における安全管理と事故防止**」の3つの内容について研修を行った。中学生の指導に携わる管理職や教諭（顧問・副顧問）、実証事業に関わる地域指導者などが参加した。

##### 指導者研修の参加実績

- ・開催日： 5月16日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 19人

令和5年度に部活動地域移行に係る保護者アンケートを実施した際に、地域指導者の質の担保を求める意見が多くあったため、今年度市独自の研修会を初めて実施した。

##### 受講者の声

・これまで長年顧問として取り組んできたため、すでに実践している内容もあったが、新たに得られた知識もあった。中学生を指導する上で基本的なことが多かったが、すべて大切なことばかりなので、中学校に持ち帰って共有をしたい。【管理職】

・多岐にわたる内容について講演をしていただいた。当然のことながら、技術指導だけではなく、安全管理やコンプライアンス、コーチングのことなど、子どもたちを指導する上で留意することは多くある。子どもたちの健全育成のために、すべきこと、できることを行っていきたい。【部活動顧問】

・地域指導者として中学生に関わる時に、どういことに気を付けていけばよいかがよく分かった。お互いに気持ちよく活動できるようにしていきたい。  
【地域指導者】

##### 今後の課題と対応方針

- ・**早い時期に設定することで、中学生の指導について共通理解を図る**ことができた。日程調整が難しく、**参加人数が想定していた人数よりも少なかった**。年間計画に組み込み、受講者を多くしていきたい。
- ・今後、継続して実施するとともに、クラブ活動を指導する地域指導者には受講を必須とするなど、**指導者の質の保障**に努めていきたい。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実②

##### 取組の成果

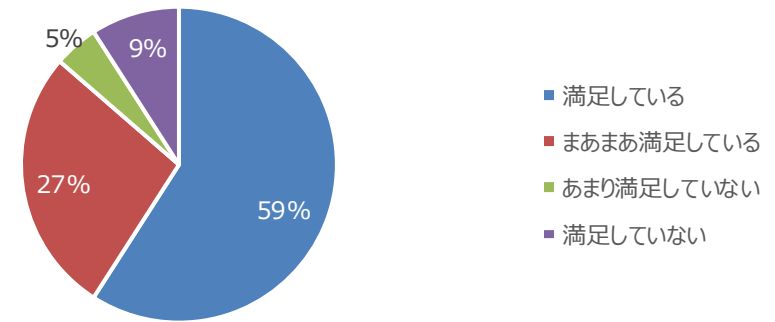
実証事業終了後に、モデル部活動に参加した中学生22名を対象にアンケートを実施した。本市では、今年度、文化部と運動部で実証事業を行っていたため、2運動部と1文化部の生徒を対象としている。

「地域クラブ活動に満足している」と**肯定的に回答した割合が86%**となった。また、「地域クラブ活動を通して、技能が向上したと思うか」の問いについても、**86%の肯定的な回答**を得ることができた。「地域クラブ活動に取り組んでみて良かったと思うこと」については、「学校の部活動ではできない小学生や高校生との交流ができた」「地域指導者の方に教えてもらうことで、上手に弾くことができるようになった」「いろいろな方が先生（指導者）として来てもらうこと」などがあった。しかし、「改善した方が良くと思うこと」の中には、「終了時間の厳守をしてほしい」「親の協力がより必要になること」などもあった。

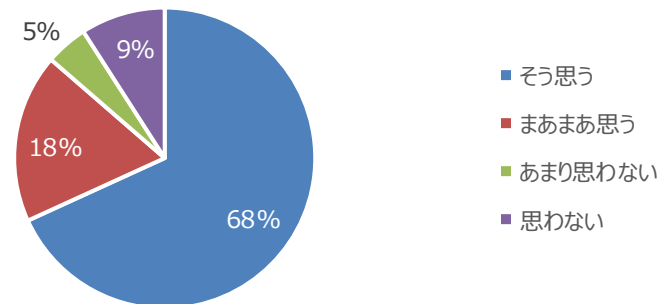
##### 今後の課題と対応方針

「部活動がこのまま地域クラブに移行するとしたら、どんなことに不安を感じるか」の問いについては、「**活動時間の長さや時間帯**」「**活動場所までの移動**」「**地域指導者との人間関係**」「**ケガやトラブルの対応**」が上位であった。概ね活動には満足しているものの、子どもたちの活動がより充実するよう、課題の解決に向けての方策を進めていきたい。

今年度検証を行っている地域クラブ活動に満足していますか。



地域クラブ活動を通して、技能が向上したと思いますか。



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

##### 取組事項

地域スポーツクラブ活動の運営や指導者配置等に必要コストを検証するとともに、こうしたコストをどのように賄っていくかについて受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めて収支構造を検討した。

##### 地域クラブに係る経費

- イニシャルコストの分析
  - ・環境整備に係る費用（3千円）
  - ・協議会委員謝金（77千円）
- ランニングコストの分析
  - ・指導者謝金（406千円）
  - ・消耗品費（45千円）
  - ・指導者研修会講師旅費（9千円）
  - ・スポーツ保険保険料等（31千円）
  - ・システム利用料（1千円）

##### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

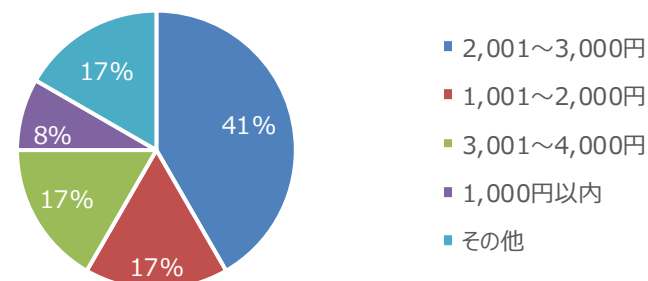
・持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。今回の調査では活動1回あたりの負担が581円程度となったが、既存の部活動を基に調査したため、大会参加費は市からの補助金で賄われているとともに、施設使用料は全額免除されている。今後の市からの支援にもよるが、**地域に移行された場合の経費は調査よりも多くかかることが予測される。**

##### 収支バランス

今回の検証では受益者負担を徴収していないが、関係保護者に対し保護者負担に関するアンケートを実施した。結果として、月額2,001円～3,000円とした保護者が最も多く全体の41%を占め、4,001円以上と回答した保護者は0%であった。このことから、今回の検証と同等の活動内容で実施しようとした場合は、**公的な支援がなければ、多くの保護者の理解を得ることは困難である**ことが予測される。

指導者謝金が全体の支出の約70%を占めることから、**謝金単価について検討**するとともに、**参加人数を増やすこと**が検証後の課題となった。

同様の体制で行う場合、どのぐらいの月謝であれば子供を地域クラブに参加させたいか（保護者）



# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

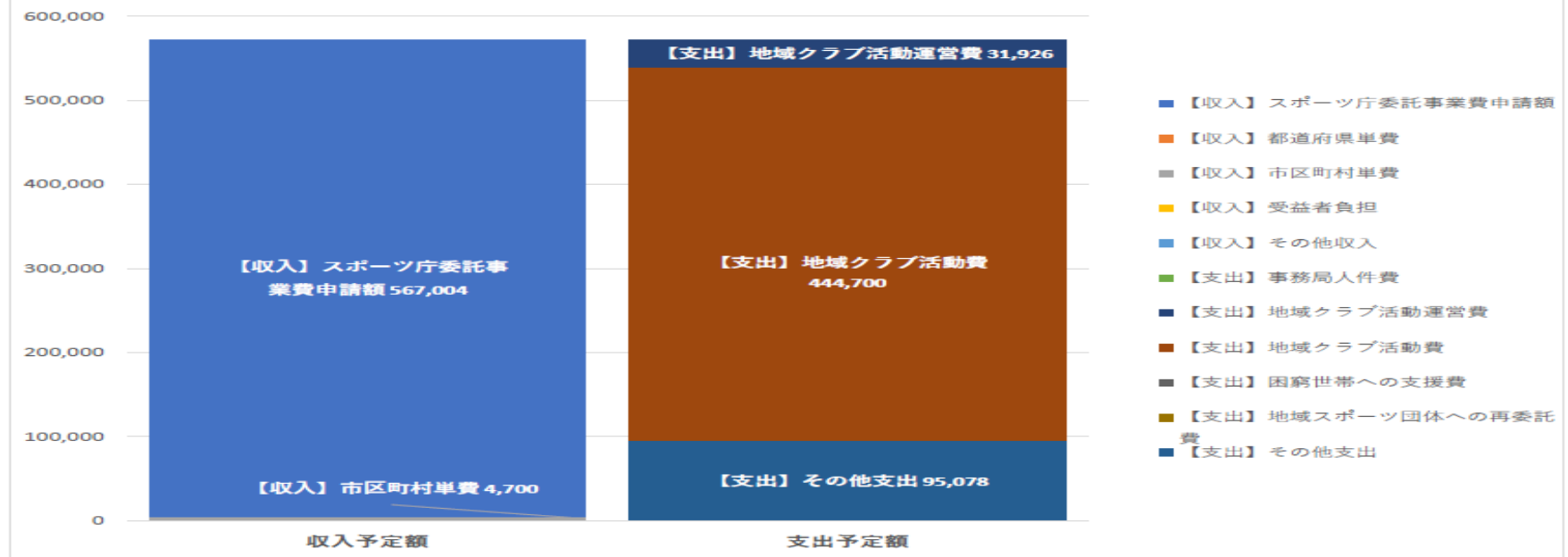
### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

#### 資料

収入			支出		
内容	金額 (円)	割合 (%)	内容	金額 (円)	割合 (%)
スポーツ庁委託事業費申請額	567,004	99.2	事務局人件費	0	0.0
都道府県単費	0	0.0	地域クラブ活動運営費	31,926	5.6
市区町村単費	4,700	0.8	地域クラブ活動費	444,700	77.8
受益者負担	0	0.0	困窮世帯への支援費	0	0.0
その他収入	0	0.0	市区町村から地域スポーツ団体への再委託費	0	0.0
<b>合計</b>	<b>571,704</b>	<b>100.0</b>	その他支出	95,078	16.6
			<b>合計</b>	<b>571,704</b>	<b>100.0</b>

区分	1回あたりの平均参加者数 (人)	年間活動回数 (回)	参加者数(人) × 年間活動回数(回)	地域クラブ活動に要する費用 (※2)				
剣道	14	56	784		<table border="1"> <tr> <td>1人あたりの年間費用</td> <td>25,986.55 円/人</td> </tr> <tr> <td>1人・1回当たりの費用</td> <td>581.00 円/人・回</td> </tr> </table>	1人あたりの年間費用	25,986.55 円/人	1人・1回当たりの費用
1人あたりの年間費用	25,986.55 円/人							
1人・1回当たりの費用	581.00 円/人・回							
相撲	8	25	200					
<b>合計</b>	<b>22</b>		<b>984</b>					

地域クラブ活動にかかる収支構造



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

- ・実証事業に係る活動（モデル部活動）で学校施設を利用する場合は、使用料を全額減免歳、部活動と同程度に優先して使用可能とした。
- ・同様に、学校備品の利用についても、当該学校の許可を得て、学校部活動と同様に使用可能とした。
- ・キーボックスを設置し、地域指導者だけで学校施設を利用できるようにした。

##### 取組の成果

- ・学校施設の利用や、学校備品の利用が可能となったことで、**地域クラブ活動における学校施設利用料や備品の調達に係る費用が抑えられ、活動の支障とならない**ようにすることができた。
- ・活動開始当初は、部活動顧問が地域クラブ活動を行う際に、学校施設の施錠管理を行っていたが、後半は地域指導者が施錠管理を行い、**部活動顧問の負担を減らす**ことができた。

##### 今後の課題と対応方針

- ・活動を中心的に行う場所（和室）を利用するために、学校の構造上、職員玄関および和室の施錠管理を地域指導者が行う必要があった。そのため地域指導者だけで利用することに、地域指導者自身が躊躇することがあった。地域クラブ活動への移行となると、同様の場所を利用する予定のため、**施設利用に関する課題**を解決できるようにしたい。
- ・学校施設の利用や学校備品の利用については、引き続きこの取組を継続し、地域クラブの円滑な運営を側面から支えていきたい。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

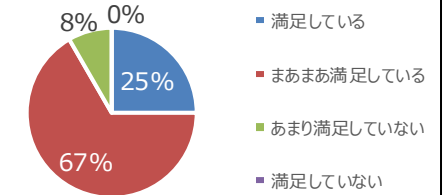
#### ●総括

- ・本市の中学校部活動地域移行を推進するにあたって、どのような解決すべき課題があるか、ある程度想定をしていたが、実証事業を通して多くの課題が見つかった。また、**想定していた課題についても、より具体的な課題を把握できた**ことが大きな収穫であった。
- ・今年度は、既存の部活動を地域に移行する取組を検証するにあたり、長年、地域指導者が無償で部活動の指導に携わっていた2つの部活動を選定した。選定時には、地域クラブ化がスムーズに進むのではないかと考えていたが、**これまで地域指導者と学校（部活動顧問）がうまく連携を取りながら実施していたからこそ、機能していた**ということが分かった。そのため、地域クラブ活動へと移行する際に、学校からの協力が得られなくなるのではと不安に思う地域指導者および保護者が多くいた。
- ・「地域クラブ活動を実施してみて困ったことや悩んだこと」を地域指導者に尋ねたところ、「個に応じた指導」の他に「生徒間のトラブル対応」「事故発生時の対応」「保護者対応」など、**これまで責任の範疇でなかったことが多く**挙げた。このような部分の解決が今後必要である。

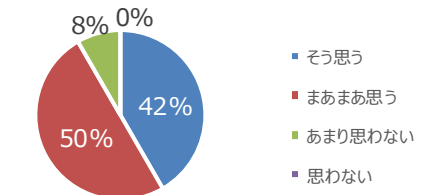
#### ●成果の評価

実証事業終了後のモデル部活動関係者アンケート結果では、「地域クラブ活動に満足している」と**肯定的に回答した割合**は生徒が**86%**、保護者が**82%**となった。「地域クラブ活動を通して技能が向上した」の**肯定的回答**は生徒が**86%**、保護者が**92%**となった。「**休日を中心に地域クラブ活動を実施して、負担が減った**」と回答した部活動顧問は**75%**であった。先述のアンケート結果からも、**地域指導者と部活動顧問との連携は十分に取れていた**と考える。

今年度検証を行っている地域クラブ活動に満足していますか。（保護者）



地域クラブ活動を通して、お子様の技能が向上したと思いますか。（保護者）



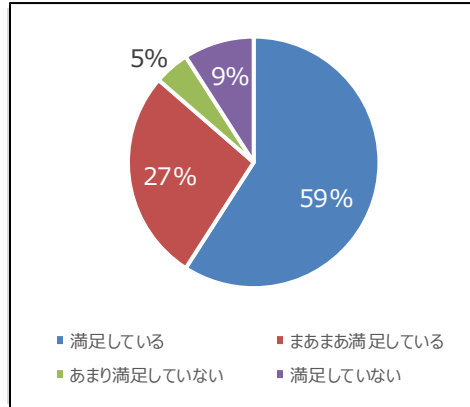
#### ●今後に向けて

- ・今回の実証事業を通して、**一部の部活動を先行して地域クラブ活動に移行することに困難さ**を感じた。地域クラブ活動が既存の部活動に比べ、どのようなメリットがあるのかが不透明であり、生徒・保護者・地域指導者から理解を得ることが難しい。そのため、市全体で一斉移行できるよう、今後、ロードマップを作成していきたい。
- ・部活動の良さの継承や、信頼できる地域指導者の発掘・確保、財政措置など、**部活動の地域移行に係る課題についての解決策**を今後協議し、スムーズな地域移行につなげたい。

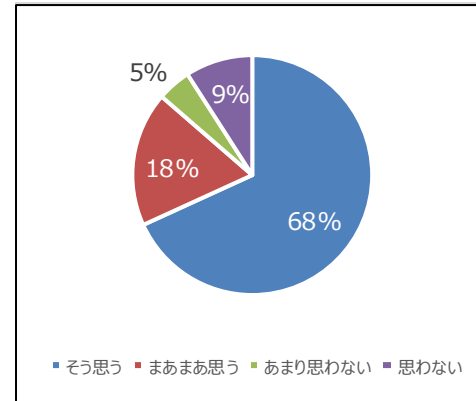
## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

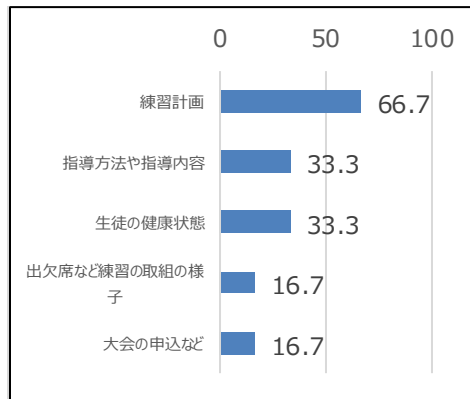
Q.今年度検証を行っている地域クラブ活動に満足しているか。(中学生)



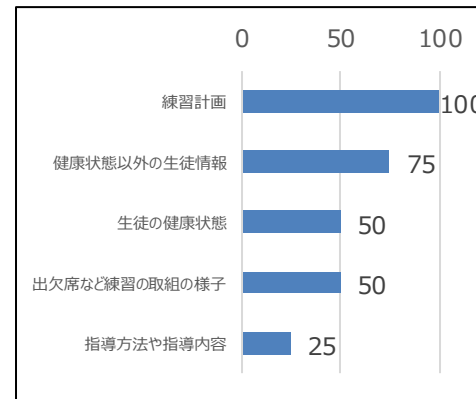
Q.地域クラブ活動を通して、技能が向上したと思うか。(中学生)



Q.学校との連携が取れていた内容について(複数回答可 地域指導者)



Q.学校との連携が取れていた内容について(複数回答可 部活動顧問)



### ●参加者の声

#### 中学生

いろいろな人たちと話したり、一緒に活動できたりして楽しい。基礎的なことを一から教えてもらえてよかった。

#### 中学生

地域移行は何をするのか。いいことなのかどうなのか、わからない部分が多々ある。やってからわかることもあるかもしれないが、メリット・デメリット以前にどうなっていくのかが、中学生の中では曖昧な気がする。

#### 地域指導者

休日だけなら問題ないが、平日になると対応はできない。平日の活動時間も自由になると対応できる方が増えるかもしれない。

#### 部活動顧問

教職員は、部活動を「当たり前」と思っているが、地域指導者にとっては、ボランティアでの指導参画は当たり前では無い。この事業で地域の方にも積極的に指導参加を願うことができ、要請もしやすかった。

## アンケート結果・広報資料

No.1

### 地域移行通信

令和6年5月発行  
文責 学校教育課

**部活動を地域全体で支える取組が始まります！**

◇なぜ部活動の地域移行なの？◇  
西予市では、今後も生徒数の減少が見込まれ、現在の学校部活動の体制が維持できなくなる恐れが生じています。将来的にも、子どもたちが豊かな文化芸術活動、スポーツ活動に取り組んでいくことができるよう、地域全体で支える環境を整備する必要があります。

◇国や県の方向性◇  
国は、令和5年度からの3年間を改革推進期間とし、地域の実情に応じて、中学校の部活動を地域に移行していくことを促しています。県は、まずは、休日の部活動の地域移行を「できるところからできるものから」行っていく方針としています。

◇◇西予市の取組◇◇

令和5年度に推進協議会を計4回開催しました。その中で西予市の部活動の地域移行について協議を行い、令和6年3月に「中学校部活動の地域移行に係る西予市推進計画」を策定しました。推進計画をもとに、令和6年度は実証事業に取り組み、西予市の適切な部活動の地域移行に向けて検証していきます。推進計画は、学校教育課HPに掲載していますので、ぜひご覧ください。

◇◇令和6年度の実証事業とは？◇◇

実証事業とは、国の補助金を利用して、地域移行の取組を検証していくものです。今年度は、部活動の休日の地域移行に、右の3つの部活動に取り組みいただきます。実証事業を通して、成果や課題を抽出します。

**【令和6年度モデル部活動】**

部活動名	地域指導者
野村中学校箏曲部	箏 絹の会
野村中学校相撲部	西予市相撲連盟
宇和中学校剣道部	剣道部外部指導者

- 休日の部活動を地域指導者が指導
- 国の補助金を活用し、休日の部活動の地域移行について検証

【地域移行通信（HP掲載）】

## モデル部活動 体験

**期間**

2025年11月～2月

**内容**

宇和中 剣道部  
野村中 相撲部  
野村中 箏曲部

**初心者  
大歓迎！**

**留意事項**

- 上記の部活動は、現在、地域への展開を検証することを目的として、休日の部活動をクラブ活動として実施し、地域指導者が指導を行っています。当日も地域指導者が指導を行います。
- 送迎は保護者等をお願いします。
- 活動中のケガについては、保険に加入をし、対応します。（保険料は補助金を利用します）
- 同じ種目で複数日の参加はできませんが、2種目以上の参加はできません。
- 現在所属している部活動の顧問の先生と参加について必ず確認しておいてください。原則、中学校1・2年生の参加とします。3年生の参加についてはお子様が所属の学校と相談してください。
- 申込後に、参加ができなくなった場合は、下記担当にご連絡ください。中止になった場合は、メールもしくは、電話連絡にてお知らせします。
- 申込は下記のQRコードからお願いします。申込締切は各活動日の**7日前**までとします。

申込は **コチラ** →

この件に関する問合せ先  
西予市教育委員会学校教育課 清水(62-6414)

【モデル部活動体験に係るチラシ（連絡アプリで保護者に送付）】

### 【剣道】

1 日時

- ① 令和7年1月11日(土) 8:30～11:30 宇和町小学校体育館
- ② 令和7年1月12日(日) 8:30～11:30 宇和中学校武道場

2 持参物  
タオル、飲料、剣道着や竹刀(※家にある人のみ)

3 留意事項

- 運動ができる格好で参加をしてください。
- 開始10分前までに、活動場所に集合してください。

### 【相撲】

1 日時

- ① 令和7年1月11日(土) 8:30～11:30 野村中学校相撲場
- ② 令和7年1月18日(土) 8:30～11:30 野村中学校相撲場
- ③ 令和7年1月25日(土) 8:30～11:30 野村中学校相撲場
- ④ 令和7年2月1日(土) 8:30～11:30 野村中学校相撲場

2 持参物  
タオル、飲料

3 留意事項

- 運動ができる格好で参加をしてください。
- 開始10分前までに、活動場所に集合してください。

### 【箏曲】

1 日時

- ① 令和7年2月1日(土) 9:00～11:00 野村中学校和室
- ② 令和7年2月8日(土) 9:00～11:00 野村中学校和室

2 持参物  
飲料、筆記用具

3 留意事項

- 服装は制服か体操服です。(防寒着着可)
- 演奏に必要な道具はモデル部活動で準備します。
- 最大20人までの受け入れです。
- 開始10分前までに、活動場所に集合してください。

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【5/16 部活動に係る指導者研修会】



【11/19 第2回西予市中学校部活動地域移行推進委員会】



【地域クラブ活動の様子（相撲）】



【地域クラブ活動の様子（剣道）】

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置  
検討開始

〈令和5年度〉

●ステークホルダー

中学校長、学校体育会関係者  
スポーツクラブ関係者、スポーツ協会  
文化庁関係者、PTA関係者  
学校教育課、まなび推進課  
まちづくり推進課

●経過

・西予市中学校部活動地域移行推進協議会開催

●実施内容、工夫した点等

・将来受入団体の候補となる地域のスポーツクラブ関係者、スポーツ協会に協議会委員を委嘱した。  
・県教育委員会義務教育課・保健体育課にオブザーバーを要請し、具体的な助言をいただいた。

令和6年

アンケート実施  
推進計画策定

〈令和5年度〉

●ステークホルダー

教員（部活動顧問等）  
小5・6児童とその保護者  
中1・2生徒とその保護者

●経過

・部活動地域移行に係るアンケートを上記のステークホルダーに実施

・アンケート結果および推進協議会での協議を受けて、中学校部活動地域移行に係る西予市推進計画を策定

●実施内容、工夫した点等

・中学校の教員だけでなく、小学校の教員も対象とし、様々な視点からの意見を収集した。

新入生説明会実施  
アンケート実施

「〈令和6年度〉

●ステークホルダー

中学校長、スポーツクラブ関係者  
スポーツ協会、PTA関係者  
実証事業関係者（生徒・保護者・地域指導者・顧問）

学校教育課、まなび推進課  
まちづくり推進課

●経過

・西予市中学校部活動地域移行推進委員会開催

・実証事業（運動部2）実施

●実施内容、工夫した点等

・文化部と同時に実証事業を実施することで、部活動地域移行全体の課題を把握することができた。  
・推進委員会のオブザーバーとして、モデル部活動地域指導者を招聘した。

令和7年

ロードマップの作成

「〈令和6年度〉

●ステークホルダー

小学校6年生児童とその保護者、教員  
小1～中2児童生徒の保護者

●経過

・部活動地域移行に係るアンケート実施（教員7月・保護者2月）

・新入生説明会の実施

●実施内容、工夫した点等

・次年度以降のロードマップ作成に係る内容でアンケート調査をそれぞれ実施した。

# 3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
期 間	改革推進期間 ※必要に応じて体制・環境整備			改革実行期間 ※休日の地域展開等に着手		
部活動		モデル部活動での実証事業		<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点校方式による部活動や合同部活動など様々な体制を導入（予定）</li> <li>・地域指導者の主体的な指導への移行（予定）など、移行期間の体制整備</li> </ul>		
	外部指導者（地域指導者）の配置		全員の部活動制の検討			
	全員部活動制					
社会体育活動 地域文化活動		地域クラブ認定体制作り		地域クラブ活動の充実		
		地域クラブ育成				
事務局	推進協議会の開催	推進委員会の開催	推進協議会の開催	西予市中学校部活動に係る地域移行方針（ロードマップ）に沿った事業推進		
	アンケート実施		ロードマップ作成			
		部活動指導に係る研修会				
	地域指導者の確保（地域・企業・教員・教員OB等）					
	説明会の開催 ※保護者・児童生徒・学校関係者・地域指導者等					
	推進計画の策定	推進計画の見直し				

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 愛媛県上島町

自治体名：愛媛県上島町

担当課名：学校教育課

電話番号：0897-77-2207

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	30.38 km <sup>2</sup>
人口	6,110 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	89 人
部活動数	8 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

上島町の出生数は、昭和46年から49年の第2次ベビーブームには、200人以上いたものの、50年を経た令和5年には15人へと大幅に減少している。合併後の20年間を見ても、出生数が減少しているのがよく分かる。今後更に減少していくことが想定される。

資料1のデータを基に、中学校の生徒数を算出（資料2）すると、各学校における部員数の確保が年々厳しさを増している状況が想像できる。ここから、上島町全体の1部活動当たりの部員数考えると、課題は明確である。

部員がいなくなった部活動は、廃部や休部となり、生徒たちの希望する部活動がないという状況も生まれる。

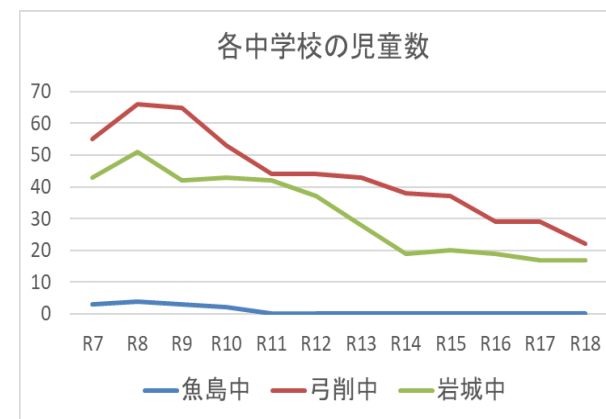
このような状況の中、このまま手を打たず何もしなければ、学校の部活動は、出生数の減少とともに急速な衰退を続け、生徒たちがスポーツや文化芸術等の活動に親しむ機会を奪う事態になりかねない。

そこで、中学校において、スポーツや文化芸術等の活動環境を再構築し、持続可能なものとなるよう、新たな体制づくりを進める必要がある。

### 【資料1】



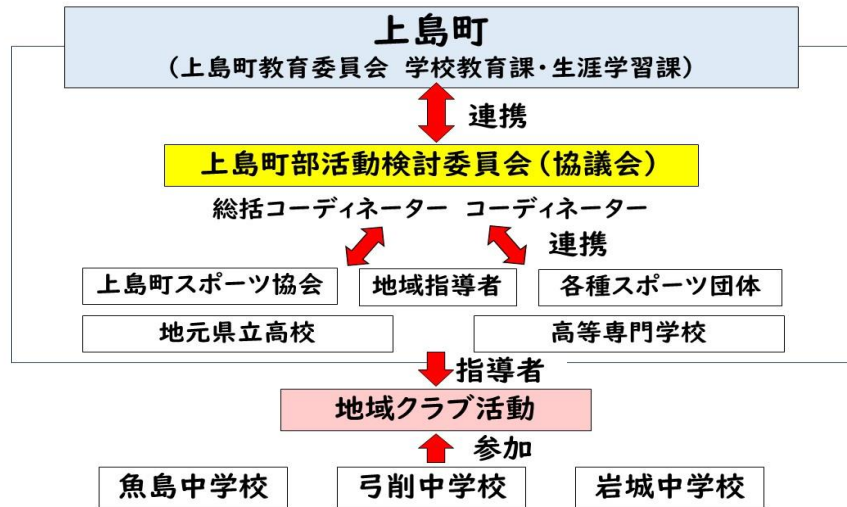
### 【資料2】



## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（上島町における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・上島町教育委員会（学校教育課）が地域クラブ活動の運営を行う。
- ・上島町教育委員会（学校教育課）が中学校、高校、高等学校との連携を行う。
- ・上島町教育委員会（学校教育課）が各種スポーツ団体との連携を行う。
- ・上島町教育委員会（生涯学習課）が上島町スポーツ協会の運営・連携を行う。

##### ◎首長部局

- ・大会に参加するために必要な費用や運営費等の予算を確保する。

### 年間の事業スケジュール

令和6年1月	指導者講習会
令和6年3月	保護者説明会
令和6年4月	保護者説明会
令和6年5月	剣道クラブ活動の実施
令和6年8月	第1回部活動検討委員会
令和6年10月	第2回部活動検討委員会
令和6年12月	第3回部活動検討委員会
令和7年2月	第4回部活動検討委員会
令和7年3月	保護者説明会

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		なし
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	14人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 1回あたり	実施期間	活動場所	指導者数 (概数)	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
剣道クラブ	上島町教育委員会	剣道	月3回	8:30~ 11:30	10人未満	5月~	弓削町民体育館	約2人	14人	0円	中体連の部活動

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

なし

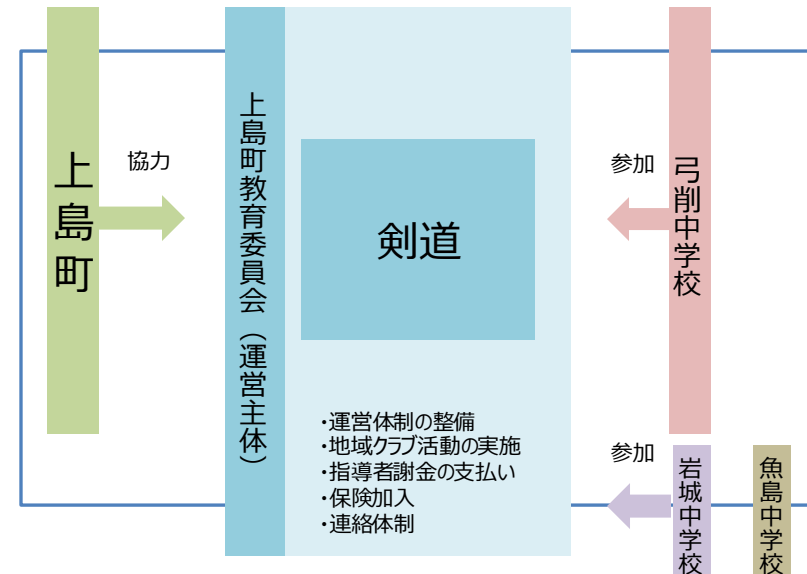
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ● 上島剣道クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営団体名	上島町教育委員会
期間と日数	剣道：5月1日～2月29日 月3回程度
指導者の主な属性	町職員
活動場所	弓削町民体育館
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	剣道：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者（スポーツ協会会長）  
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 主任指導者 1名  
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う
- 運営補助者（上島町学校体育会会長）  
役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



## 取組内容

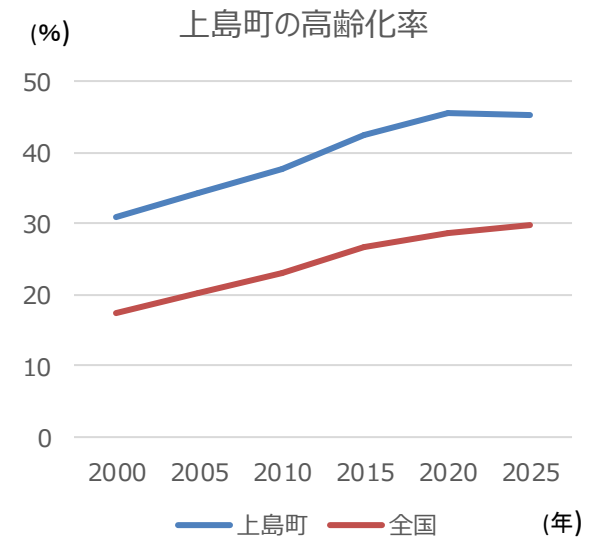
### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

- 広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体との連絡調整・指導助言等を行う。
- 運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
- 指導者への連絡、会場の確保・調整を行う。

#### 取組の成果

- 統括コーディネーターを配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- 部活動検討委員検討会を重ねた結果、自治体の特色に合った方法が少しずつ見えてきた。今後も、町費との兼ね合いを考えながら持続可能な体制を整えていく。
- 学校や指導者との連携により、スムーズに運営をすることができた。しかし、病気や怪我等で指導者の確保できず、活動できない日があり悔やまれる。



#### コーディネーターの具体的な動きの実績

- 【総括コーディネーター】
  - ・協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。
- 【コーディネーター】
  - ・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施した。

#### 今後の課題と対応方針

- 既存の地域クラブがないため、全ての運営を教育委員会中心で行う必要がある。
- 高齢化が進む中、コーディネート業務を担う人材の発掘・育成や指導者の確保・資質向上を図る方策の検討を行う必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

##### 取組事項

- 令和6年度は、人材バンクを設置できていない。今後の設置を検討し、指導者の確保に努める。
- 指導者に対して、資質向上のための研修を年1回開催する。
  - ・発達の段階に応じた指導
  - ・安全の確保や事故発生時の対応
  - ・体罰やハラスメントの防止

##### 取組の成果

- 指導者2名を確保した。
- 年1回、指導者研修会を実施した。
- 指導者研修会に参加できない者については、教育委員会の担当者が研修を行った。
  - ・傷害予防  
ただの「習慣的なストレッチやエクササイズ」にせず、傷害予防やパフォーマンス向上につながるエクササイズを実技を交えて行った。
  - ・コミュニケーションの可能性  
自分のタイプを知り、相手とのかかわりで注意すべきことや相手に合わせてアプローチする方法を考える研修を行った。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

##### 指導者研修の内容

###### 【部活動指導者研修】

- ・対象：地域クラブ指導者
- ・目的：部活動指導者としての資質の一層の向上を図るとともに、体罰やハラスメントの根絶を目指す。
- ・工夫した点：愛媛県教育委員会主催の研修会に参加できなかった指導者に対して、上島町教育委員会担当者が研修を行った。

##### 指導者研修の参加実績

- ・開催日： 1月 23日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 2人

##### 受講者の声

###### 【参加した地域クラブ指導者の声】

「コーチング式4つのタイプに基づく指導方法が新鮮で、特に選手の個性に合わせた対応が重要だという点に気づかされました。従来の方方法にとらわれず、選手一人一人に適切なアプローチを試みることが効果的であると感じました。」

「コーチングの4つのタイプがどれも異なる視点でコミュニケーションを促進する方法であるため、自分自身の指導スタイルにどのタイプが適しているのかを見直すきっかけとなりました。指導だけでなく、自己成長にもつながる研修でした。」

##### 今後の課題と対応方針

○実証事業に参加する地域クラブ指導者は、本研修を必須としたかったが、本務のある者にとって難しかった。来年度は、愛媛県が公開しているWeb研修会に参加してもらいたい。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

○学校と連携して進めていくため、校長会やPTA総会において、本町の取組及び今後の見直し等の説明を実施。

○施設の利用について、各中学校や生涯学習課と連携。

○県立高等学校や国立商船高等学校と連携し、種目の見直しを検討。

##### 取組の成果

○校長会に参加し、学校の協力を求めることで、町内中学校の全ての生徒に事前周知や募集チラシの配布を行うだけでなく、PTA総会で活動の周知をする機会を得た。

○活動するときは、指導者が指導に集中できるよう、町内の施設を優先的に使用できるようにした。

○県立高等学校や国立商船高等学校と連携し、アンケートには表れないニーズを把握することができた。

##### 今後の課題と対応方針

○生徒の活動場所までの移動手段を確保するための、路線バスやスクールバスを活用を検討する。

○運営の効率化を図るため、アプリを活用した出欠確認について検討する。

○中学生時代に行ったクラブ活動が、県立高等学校や国立商船高等学校でも行えるようつながりを考えた新たなクラブ活動を検討する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

##### 取組事項

- 地域クラブ活動については、全ての中学校の生徒が所属できるようにした。
- 市町をまたぐ合同部活動については、異なる地域間での調整や指導者の確保が困難なため、学校内での活動に限定し、地域移行は行わない。
- 拠点校方式による活動も考えられるが、交通の便や偏り等を防ぐため、当面は導入をしない。

##### 取組の成果

- 地域クラブ活動の活動場所と異なる中学校区外から参加した生徒が1名いた。少人数であるが生徒のニーズに応じることができた。
- 実証事業や補助事業も活用しながら、休日の学校部活動の内、1つを地域移行・展開を進めることができた。

##### 今後の課題と対応方針

- 活動場所については、町内の県立高等学校や国立商船高等学校と連携して、活動場所を広げられるよう検討する。
- 各校の部活動の状況やそれぞれの地域の実情に応じて、地域移行・地域展開を進め、生徒が継続して活動を行えるよう取り組んでいく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実①

##### 取組事項

- 生徒自身が望む豊かなスポーツ活動を実現する。
  - ・生徒が生涯にわたってスポーツに親しむ機会の確保
- 地域での多様な体験や様々な世代と交流する。
  - ・行政やスポーツ団体、学校等との緊密な連携
- 教員のやりがいを推進する。
  - ・教員の専門性や意思に基づき、学校部活動や地域クラブ活動を指導する体制の構築

活動の詳細			
参加人数	5人	指導者数	2人
属性	剣道クラブ指導者		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総体に向けた技術的・実践的な指導</li> <li>● 基本打ち等を中心とした基礎的な指導</li> <li>● 木刀を使った基本技の稽古</li> </ul>		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 練習の内容が深くなり、技術のレベルが向上しました。</li> <li>● 学校は単級でいつも同じ友達との関わりです。新しい仲間との関わりがとても楽しいです。</li> <li>● 平日と休日で指導者が違うけど、問題はありません。</li> </ul>		
保護者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校の枠を超えて、他の地域の子どもや大人と活動できてとても貴重な経験だと思います。</li> <li>● 専門的な指導をしていただき、子どもの技術向上に大きく役立っていると思います。</li> <li>● 他の地域のクラブに参加することで、コミュニケーションが広がっています。</li> </ul>		
運営経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童生徒の保険の加入</li> <li>● 地域クラブ指導者の保険、謝金及び研修旅費の支給</li> <li>● 大会等遠征費</li> </ul>		

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実②

##### 取組の成果

参加した中学生 5 人全員が充実した時間を過ごせたようである。これは、専門的な指導が実現できたことが大きな成果である。競技経験のある指導者を招き、技術指導を行うことで、参加者のレベルアップを図れた。特に初心者から中級者まで幅広いレベルに対応したトレーニングを提供できたことにより、参加者一人一人の成長を感じることができた。指導者の指導方法やアドバイスが、生徒たちの自信や技術向上につながったと評価される。

また、校区外の生徒も参加したことが本事業の特徴的な成果である。今後、地域全体での交流が進み、他校の生徒同士が互いに切磋琢磨しながら活動することも考えられる。さらに、地域社会のつながりが強化され、参加者の社会性や協調性も向上することが期待される。

教員の時間外勤務時間については、対象のスポーツの顧問のみであるが、時間外勤務時間が削減された。

##### 今後の課題と対応方針

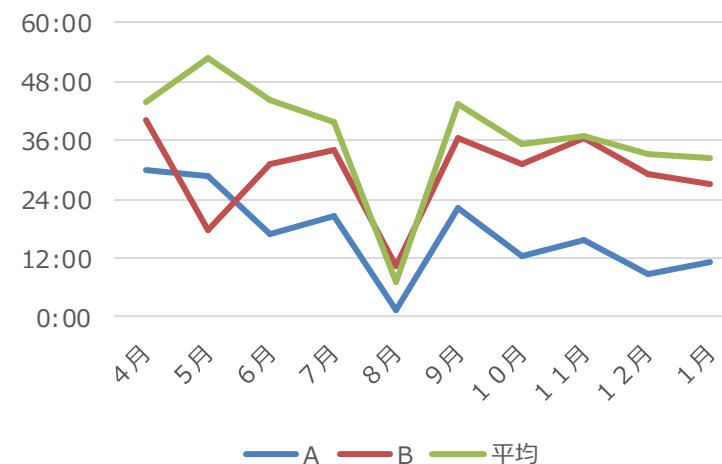
今後の課題として、校区外の生徒が参加しやすい交通手段の整備と、大会参加にかかる費用負担の軽減が挙げられる。現在、交通手段が不便であるため、校区外の生徒が参加しづらい状況である。これに対して、スクールバスの運行や地域の交通機関との連携強化が対策となる。

また、大会参加には移動費や参加費用が必要であり、これが負担となる

保護者もいる。費用負担を軽減するための段階的な負担制度や補助金の活用も重要な対応策である。

これらの課題を解決することで、より多くの生徒が参加しやすくなり、地域スポーツクラブの活動が活性化することが期待される。

令和 6 年度時間外勤務時間



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

##### 地域クラブに係る経費

○運営主体の収支構造を3つに分けて検証を行い「スポーツ活動費（保険料）」については、生徒の保護者自らが負担するべきものと考えていたが、指導者同様に国費を活用した。

「事務局運営費」については、生徒へ直接的に支援している経費ではないので、国費や町の自主財源等を活用する。今年度は活用していない。

##### 収支バランス

○今年度は地域スポーツ活動の実証事業の開始年であり、保護者への周知が遅れたため運営における受益者負担を軽減した。

○今後、受益者負担額の設定においては、参加率が低調にならないよう「1年単位」で申込者全員に負担するようにする。

##### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

○今後の持続可能な運営を考慮すると、保険料、運搬費、旅費などの費用について、受益者負担を導入する必要がある。この方針により、安定した事業運営が可能となり、地域スポーツ活動の普及と継続が図れると考える。

#### 令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業費

項目	費用	割合
スポーツ活動費	153,600	96%
諸謝金	153,600	96%
諸謝金（指導者）	153,600	96%
諸謝金（補助員）	0	—
会場使用料	0	—
消耗品費	0	—
印刷製本費	0	—
交通費	0	—
雑役務	0	—
スポーツ活動費（保険料）	6,944	4%
生徒	3,200	2%
指導者、補助員	3,700	2%
システム利用料	44	0%
事務局運営費	—	—
人件費	0	—
通信運搬費	0	—
振込手数料	0	—
一般管理費	0	—
消費税相当額	0	—
合計	160,544	—

○来年度の運営に向けて、具体的な負担方法について受益者との合意形成を進めている。特に、貧困家庭への配慮が必要なため、補助金の活用などを検討し、負担軽減策を講じる必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行った。

○拠点中学校を運営主体と訪問し、事業への協力及び施設の利用について調整を行った。

##### 取組の成果

○地域スポーツ活動の実証事業において、スポーツ協会との話合いや生涯学習課の協力により、町体育館の使用を無償で提供することができた。

##### 対象となった活動場所

○弓削町民体育館

##### 今後の課題と対応方針

○実証事業の活動日に町の行事が行われることもあったので、引き続き、学校や教育委員会に町の行事と実証事業の活動が競合しないよう、事業趣旨の理解等を求める。

○部活動の地域移行に伴い、町体育館や地域クラブ活動の拠点となる学校体育施設を利用しやすい環境を整えるため、体育施設の利用調整について生涯学習課と連携を図りたい。

○施錠や施設の管理は教育委員会の指導の下、指導者が行うこととした。地域スポーツクラブ活動を実施する際の利用ルール（施設・設備・備品等の利用範囲や破損・紛失した場合の対応、施設の開閉手段・方法を含む）を策定する必要がある。

### 総括・取組の方向性・今後に向けて

#### ●総括

令和6年度には、地域クラブ移行に向けた試行的な取組を行い、成功事例と課題を検証した。この取組を通じて、令和7年度以降に持続可能な地域クラブ種目の選択や指導者の確保の方法を模索し、最終的には「チーム上島」として町内に1種目1クラブの地域クラブ活動を立ち上げることを目標にした。こうした活動を進めることで、上島町の離島という不便な立地においても、部活動の地域移行を実現し、地域のスポーツ活動の振興と活性化を図りたいと考える。

地域指導者の確保ができる競技種目から移行を始め、実際の運営を通じて得られる成果と課題を検証した結果、令和7年度は、さらに1種目以上を地域クラブに移行し、持続可能な形で地域のスポーツ活動を支えていく体制を整える計画である。

部活動の地域移行に向けては、特に、指導者の確保が大きな課題であり、地域の指導者をどのように育成し、確保するかが重要である。また、地域クラブとしての活動基盤が整っていないため、移動手段や活動にかかる受益者負担について保護者の理解が不可欠である。

#### ●取組の方向性

○学校部活動については、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう、適正な運営や効率的・効果的な活動の推進を図る。また、学校部活動の教育的意義や役割は、地域クラブ活動においても継承・発展させていく。

○部活動の地域移行については、実証事業や補助事業も活用しながら、まずは休日の学校部活動から地域や学校の実情等にも十分に配慮しつつ段階的に進めていく。

○大会の引率は、生徒が在籍校の生徒として出場するため、教員が行わなければならない。必要に応じて、地域クラブ指導者も指導者として同行できる。

(土日の練習試合は、地域クラブ指導者のみが引率することができる。)

○市町をまたぐ合同部活動については、異なる地域間での調整や指導者の確保が困難なため、学校内での活動に限定し、地域移行は行わない。

○拠点校方式による活動も考えられるが、交通の便や偏り等を防ぐため、当面は導入をしない。

○合意形成や条件整備等のために時間を要することも想定されるが、学校の統廃合も視野に入れながら、できるところから取り組んでいく。

○弓削高校や弓削商船高専生徒との連携・協働により、新たな地域クラブの発足も視野に入れる。

#### ●今後に向けて

新たに岩城地区に卓球クラブを立ち上げ、岩城中卓球部に在籍している生徒とともに、町内の小中学生を対象に地域クラブへの参加希望者を募り、休日の地域クラブ活動を行う。

### アンケート結果・参加者の声

#### ●参加者の声

##### 中学2年生

「このスポーツクラブに参加してから、練習内容がどんどん深くなり、自分の技術が大きく向上したと感じています。以前はできなかった動きができるようになり、練習を重ねるごとに成長を実感しています。難しい技術に挑戦するのが楽しく、もっと上達したいと思っています。これからも練習を頑張り、さらに技術を磨いていきたいです。」

##### 中学2年生

「校区外から参加して、ふだん会えない友達と一緒にスポーツをするのがとても楽しいです。ふだんは学校の友達としか遊べませんが、このクラブでは新しい友達ができ、みんなで協力しながら練習しています。地域が違って、スポーツを通じて仲良くなれるので、とても嬉しいです。これからもたくさんの友達と一緒に活動したいと思っています。」

##### 保護者

「専門的な指導を受けることで、子どもの技術が大きく向上しているのを感じています。これまでは自己流で練習していた部分も多かったのですが、経験者からの細やかな指導を受けることで、技術や動きがより正確になり、自信を持って練習に取り組んでいます。子どもの成長を間近で見て、参加させてよかったと実感しています。今後も継続的にこのような指導を受けさせたいと思っています。」

##### 指導者

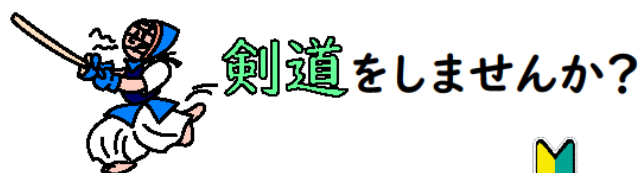
「生徒が好きなことで汗を流しながら一生懸命取り組んでいる姿を見ることができ、指導者としてとてもやりがいを感じています。もちろん、指導を行う中で大変なこともあります。生徒と共に成長していく過程と一緒に歩んでいけることが何よりの喜びです。生徒が技術を向上させる姿を見ると、指導している側としても満足感でいっぱいになります。」

### 【生徒への参加啓発チラシ】

#### 広報資料

#### 地域クラブ発足に伴うスポーツ安全保険加入に関する案内

3回の上島町部活動検討委員会を通して、参加者の負担が過度にならないように検討を重ねた結果、受益者負担については事前の説明が不可欠であると考え、今年度中に保険への加入を義務付けることを保護者へ周知した。



対象

小5～中3  
男女問わず

活動日

土曜・日曜  
基本週1回



初心者さん  
大歓迎

体験・見学OK!

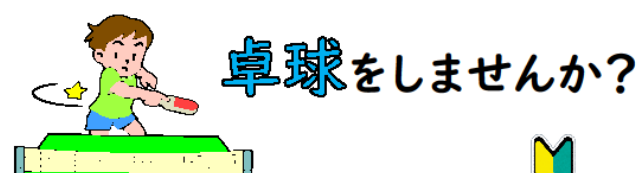
上島町教育委員会では、令和7年度も部活動地域移行として、弓削中剣道部の休日の活動を、地域クラブ活動として実施します。  
休日は地域の方の指導のもと、弓削体育館を拠点に活動します。

#### 事前を知っておいていただきたいこと

- ・剣道部以外の中学生が活動したい場合、前もって学校に相談してください。
- ・活動場所への移動は保護者の方が責任をもって行ってください。
- ・活動中のケガや事故に備え、スポーツ団体保険に必ず加入してください。  
※4月21日までに学校へ800円を預けてください。(自己負担)
- ・大会に出場できるのは、弓削中学校の生徒のみです。
- ・令和8年度以降の本事業については、未定であることをご了承ください。

#### 申し込み方法・問い合わせ先

お電話またはメールで、上島町教育委員会にご連絡ください。  
【上島町教育委員会 部活動地域移行担当者】  
(TEL) 0897-77-2207  
(メール) kyoiku@town.kamijima.ehime.jp



対象

小5～中3  
男女問わず

活動日

土曜・日曜  
基本週1回



初心者さん  
大歓迎

体験・見学OK!

上島町教育委員会では、令和7年5月より部活動地域移行として、岩城中卓球部の休日の活動を、地域クラブ活動として実施します。  
休日は地域の方の指導のもと、岩城開発センターを拠点に活動します。

#### 事前を知っておいていただきたいこと

- ・卓球部以外の中学生が活動したい場合、前もって学校に相談してください。
- ・活動場所への移動は保護者の方が責任をもって行ってください。
- ・活動中のケガや事故に備え、スポーツ団体保険に必ず加入してください。  
※4月21日までに学校へ800円を預けてください。(自己負担)
- ・大会に出場できるのは、岩城中学校の生徒のみです。
- ・令和8年度以降の本事業については、未定であることをご了承ください。

#### 申し込み方法・問い合わせ先

お電話またはメールで、上島町教育委員会にご連絡ください。  
【上島町教育委員会 部活動地域移行担当者】  
(TEL) 0897-77-2207  
(メール) kyoiku@town.kamijima.ehime.jp



## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【上島町親善試合】



【上島町親善大会】



【新人戦】



【愛媛県総体】

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、  
検討開始



受け皿団体や  
指導者の選定、  
拠点校の選定



学校現場との  
調整



生徒、保護者へ  
の説明



令和6年

地域クラブ活動  
の開始



令和7年

地域クラブ活動  
の拡大

#### ●ステークホルダー

教育委員会、学校、スポーツ協会、総括コーディネーター、コーディネーター

#### ●経過

部活動の地域移行を進めるため、令和5年4月に「部活動検討委員会」を立ち上げ、令和5年度に4回、令和6年度に3回の委員会を開催した。この委員会は、町内のスポーツ協会会長が委員長を務め、弓削高校や弓削商船高等専門学校の教職員などが委員として参加し、地域のスポーツ指導者の確保や、地域クラブへの移行に向けた具体的な議論を行ってきた。特に、部活動の地域移行に向けては、地域指導者の確保が重要な要素であり、地域で指導者を確保できる競技種目から移行を進める方針である。

#### ●実施にあたって生じた課題

小さな自治体で町の人口自体が少なく、指導者の確保に課題があるため、現場指導と並行して指導者の育成を行う必要がある。また、競技経験が豊富な指導者の高齢化が進んでいるため、本実証事業を通じて、若手指導者の育成と持続可能な指導者確保につなげたい。

#### ●今後の展開

令和7年度も地域指導者の確保ができる競技種目から移行を始め、1種目以上を地域クラブに移行し、持続可能な形で地域のスポーツ活動を支えていく体制を整える。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

### 休日の地域スポーツクラブ活動への移行（目標）

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
魚島中 卓球	地域クラブ	地域クラブ	地域クラブ	地域クラブ
弓削中 剣道	学校部活動	地域クラブ	地域クラブ	地域クラブ
弓削中 テニス	学校部活動	学校部活動	学校部活動	地域クラブ
弓削中 バスケット	合同チーム	合同チーム	合同チーム	合同チーム
弓削中 サッカー	合同チーム	休部中		
岩城中 卓球	学校部活動	学校部活動	地域クラブ	地域クラブ
岩城中 テニス	学校部活動	学校部活動	学校部活動	地域クラブ
岩城中 野球	合同チーム	合同チーム	合同チーム	合同チーム

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 愛媛県 松前町

自治体名：愛媛県 松前町

担当課名：社会教育課

電話番号：089-985-4138

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	20.38 km <sup>2</sup>
人口	30,195 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	838 人
部活動数	30 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

町立中学校の学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備については、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒のスポーツ・文化芸術活動の場として、新たに地域クラブ活動を整備する必要がある。その際は、地域の実情に応じ、関係者の共通理解の下、できるところから取組を進めていくことが望ましい。

学校部活動については、その教育的意義を踏まえたうえで、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう、適正な運営や効率的・効果的な活動の推進を図る。

また、当面、学校部活動の地域連携として、

必要に応じて拠点校方式による合同部活動も導入しながら、学校設置者や学校が、地域の協力を得て、部活動指導員や外部指導者を適切に配置し、生徒の活動環境を確保する。

学校部活動の教育的意義や役割は、地域クラブ活動においても継承・発展させていく。

部活動の地域移行については、中学生等のスポーツ・文化芸術活動の機会を着実に確保していくため、実証事業や補助事業も活用しながら、まずは休日の学校部活動から、地域や学校の実情等にも十分に配慮しつつ段階的に進めていく。

### 松前町内児童生徒数（令和6年5月1日現在）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
令和6年度中学生							277	270	291	838
令和7年度中学生						296	277	270		843
令和8年度中学生					298	296	277			871
令和9年度中学生				253	298	296				847
令和10年度中学生			263	253	298					814
令和11年度中学生		256	263	253						772

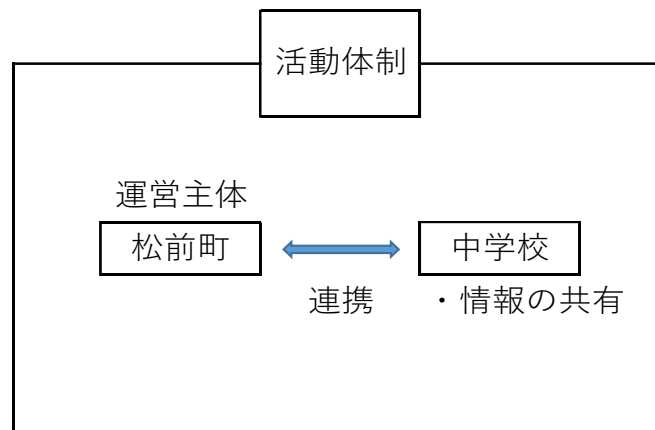
### 【課題】

現在の松前町の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会（学校教育課、社会教育課）

「地域部活動体制整備」：【主担当課：学校教育課】

- ・部活動改革の基本となる松前町推進計画を策定するため「推進計画策定委員会」を設置し、実現に向けた体制を整備する。
- ・休日部活動の地域移行を実現するために、現在、部活動を運営している学校との連絡調整を行う。

「地域部活動運営」：【主担当課：社会教育課】

- ・推進計画策定委員会において決定した松前町推進計画に基づき、具体的な方策を実施する。
- ・休日部活動の地域移行を実現するために、新たに部活の運営を行う地域との連絡調整を行う。

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	モデル事業の実施 ・松前ホッケークラブ ・北伊予ソフトテニス女子
令和6年 6,7,10月	部活動の地域移行に関する三市町（伊予市・砥部町・松前町）協議の開催
令和6年6月	部活動の地域移行に関するアンケートの実施
令和6年 7,10,11月	部活動会議（町内3中学校・教育委員会）
令和6年9月	令和6年度第1回松前町部活動地域移行検討委員会の開催
令和6年12月	高校部活動体験の開催
令和7年1月	部活動地域展開説明会（新入生・保護者・地域）

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	5 人	全体の運営スタッフ数	1 人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
北伊予ソフトテニス女子	地方公共団体	ソフトテニス	週 1 回（毎週土日のいずれか）	9:00～12:00	10～20人	令和6年4月1日～令和7年2月28日	北伊予中学校	2 人	-	-	中体連：部活動
松前ホッケークラブ	地方公共団体	ホッケー	週 1 回（毎週土日のいずれか）	9:00～12:00	20～30人	令和6年4月1日～令和7年2月28日	松前町国体記念ホッケー公園	3 人	1 人	-	地域クラブ

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

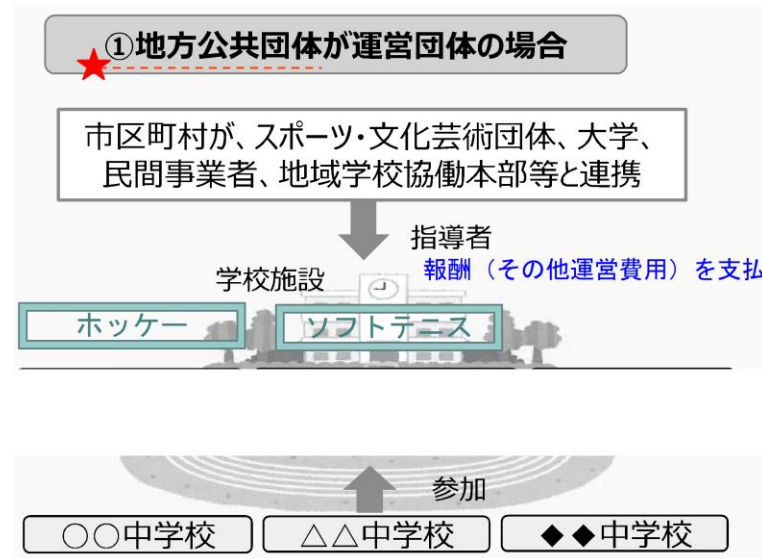
- 4月に学校に募集チラシを配布し、個別にホッケー体験を受付（道具貸出）。
- 6月29日にエンジョイホッケーイベントを開催し、部員増加につなげる。

## 主な取組例

### ●北伊予ソフトテニス女子クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	北伊予ソフトテニス女子
期間と日数	ソフトテニス：4月1日～2月28日 月2回程度
指導者の主な属性	地域の指導者
活動場所	北伊予中学校
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	－円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 指導者 1名  
役割：ソフトテニスの実技指導を行う
- 運営補助者 2名（教育委員会職員）  
役割：指導者への謝金支払い、指導者や学校との連絡調整を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

令和5年度に引き続き、2部活動（松前町立北伊予中学校女子ソフトテニス部、松前ホッケークラブ）において地域指導者に休日における指導を依頼し、休日地域クラブ活動のモデルとする。モデルクラブ活動において、関係者間の連絡体制の問題点を洗い出す。

##### 今後の課題と対応方針

現在指導を行う指導者に加え、次世代を担う若い指導者の発掘・育成を行い、運営団体としての強化・整備を行う必要がある。

##### 取組の成果

中学校1～2年生547人、小学校4～6年生879人、中学校教員76人、保護者1,426人を対象としたアンケートの結果、71%の回答があり、以下のような回答が得られ問題点の洗い出しにつながった。

・指導者が地域の人に代わることによって先生の負担や個人の時間が増えるのはよいことだと思うが、トラブルが起こったり事故が起こったりしたときの手配や責任が学校を使っているだけの指導者に任されるのか学校側で責任を負うのかわからない

##### 調査対象および調査方法

対象	調査方法	対象者数	回答者数(回答率)
小学校4～6年生	Microsoft Formsで回答	879	870(98.97%)
中学校1～2年生	Microsoft Formsで回答	547	478(87.38%)
中学校教員	Microsoft Formsで回答	76	56(73.68%)
保護者	Microsoft Formsで回答	1,426	679(47.61%)

出典:部活動アンケート結果 松前町教育委員会

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

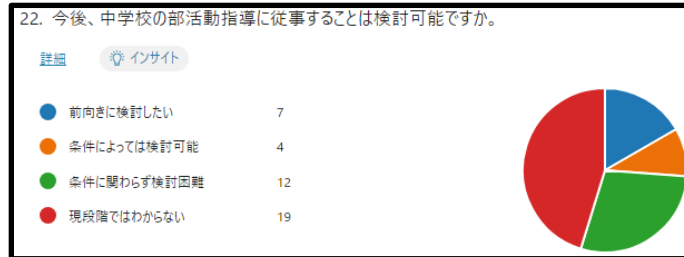
#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項

スポーツや文化の関係団体にアンケート調査を実施し、指導者の確保につなげる。

部活動指導者としての関わりから地域クラブへの移行を見込む。

##### アンケート対象団体数 53団体



出典：部活動アンケート結果 松前町教育委員会

##### 人材バンクの人数

9人

##### 資格有無

有資格者 4人

##### 種目

軟式野球 1人

サッカー 2人

バスケットボール 1人

ソフトテニス 3人

バドミントン 1人

吹奏楽 1人

##### 人材バンクの年齢構成

20代 1人

30代 0人

40代 1人

50代 1人

60代 2人

70代 4人

80代 0人

計9人

##### 取組の成果

アンケートの結果、「指導力に見合った適正な報酬」や「柔軟な勤務条件の確保」、「部活動顧問との役割・責任分担の明確化」を望む声があり、課題点の抽出ができた。

次年度は愛媛県競技力向上対策本部に指導者の派遣を依頼し、指導者の確保をする見込み。

##### 今後の課題と対応方針

令和7年1月より、指導を前向きに検討していただける希望者と、学校側の意向をすりあわせることができる、「松前町立中学校部活動外部指導者・部活動指導員人材バンク」を設置した。登録者の中から学校が希望する部活動を指導する「部活動外部指導者」「部活動指導員」をマッチングして配置する。

今後は広報やホームページ等で周知を行うなど、まずは広く部活動の指導者の確保に努め、その後の地域クラブ活動につなげる。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

##### 取組事項

モデルクラブ活動において活動実施することで活動費用の検証を行い、平均的な参加者負担や参加費用負担の支援の可能性を探る。検証にはアンケートを実施し、情報を収集する。

##### 地域クラブに係る経費

##### ■イニシャルコストの分析 (教育委員会運営)

##### ■ランニングコストの分析

指導者謝金 483,200円  
 (時給1,600円×302h)  
 スポーツ安全保険料 23,494円

##### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

休日活動一人当たり経費調べ (円)

	活動員数	9月間経費	月一人当たり
ソフトテニス	27人	233,600	961
ホッケー	30人	249,600	924

出典：松前町教育委員会

受益者負担で活動費の全てを賄うとした場合には、図で示した金額の負担が必要である。

##### 収支バランス

##### I. 収入

費目	種別	決算額	割合
収入	都道府県委託料	500,000	98.7%
	市区町村費	6,694	1.3%
総計		506,694	

令和6年度は全て都道府県の委託料と市区町村費で賄っている。

##### II. 支出

費目	種別	決算額	割合
支出	市区町村執行額 (再委託費を除く)	506,694	100.0%
総計		506,694	

出典：松前町教育委員会

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



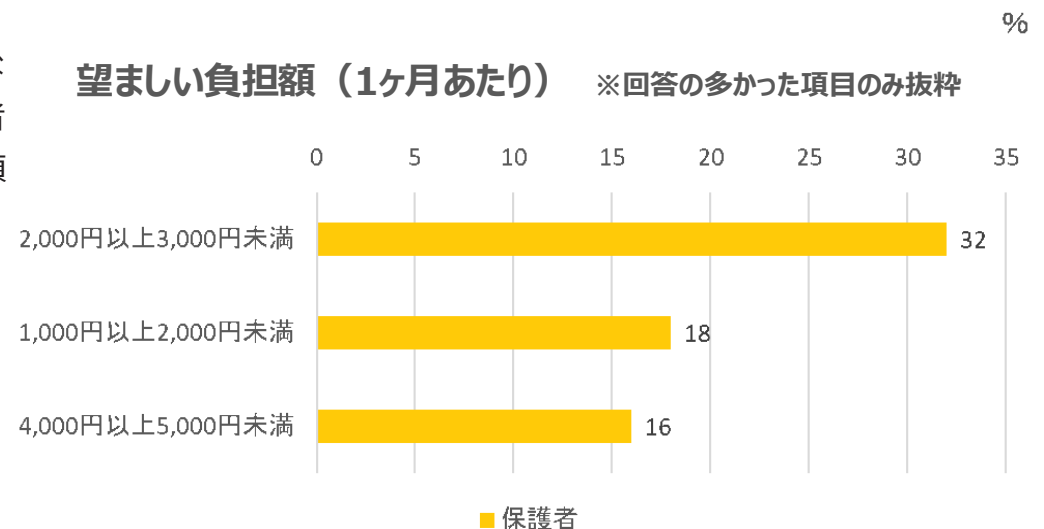
### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

##### 取組の成果

保護者を対象としたアンケートにより、地域クラブでの理想的な受益者負担額を探った。（回答は右図）

部活動に費用負担が（実費以外は）ないことから、できる限り安価な負担を希望していると思われ、現状の部活動のような状態がよい保護者はできるだけ安価、専門的な指導が受けられることを望む保護者は高額でもよいと考えており、意見が2極化している。



出典:部活動アンケート結果 松前町教育委員会

##### 今後の課題と対応方針

受益者負担で活動費の全てを賄うとした場合の金額と、保護者が理想的に考えている金額で乖離が発生していると思われる。（アンケートは休日の活動に限定した負担額ではなかったため、平日の活動も含めると大きな乖離を生むと思われる。）

また、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた時にあやうい。低廉な受益者負担を求めたうえで、少なからず企業の協賛や行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを検討する必要がある。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

当町では、

○ 少子化の中で、将来にわたり子どもたちがスポーツや文化芸術活動に親しむことのできる機会を確保する。

○ 地域に持続可能で多様なスポーツや文化芸術活動の環境を整備し、子どもたちの多様な体験機会を確保する。

○ 子どもの活動場所の確保を進める。

ことを目指す姿として掲げている。

持続可能な地域クラブのあり方についてモデル事業として検証を行ったが、費用負担の問題が一番大きな問題であり、保護者負担のしわ寄せにより、現状よりも、子どもたちがやりたいスポーツや文化芸術活動ができなくなることを危惧する。企業や行政の支援のもと実施できる仕組みづくりと、指導者の入れ替わりにも対応できる十分な指導者の確保が喫緊の課題である。

#### ●成果の評価

検証を行うために始めた平日部活動と連携させた休日の地域スポーツクラブのモデル事業であったが、次年度から、ソフトテニスについて、完全に部活動とは切り離れた地域スポーツクラブをモデル事業の指導者が立ち上げることとなった。

指導者が、ある程度部活動に関わりをもったのちに地域スポーツクラブを創設していただく今回のケースは、子ども達にとっても部活動から地域スポーツクラブへとつながりやすいロールモデルであると考えます。

#### ●今後に向けて

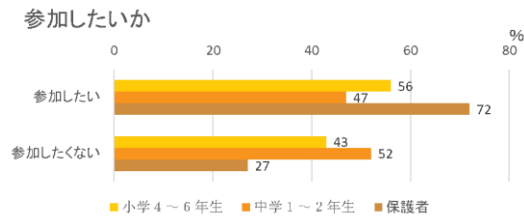
令和7年1月に設置した松前町人材バンクを十分に活用し、まずは部活動に外部の指導者に関わっていただき、地域スポーツクラブの設置へとつなげていきたい。

受益者の費用負担の問題については、活動の場所を提供するなど、行政として可能な支援を行うことで、できる限りの負担軽減を図りたいと考える。

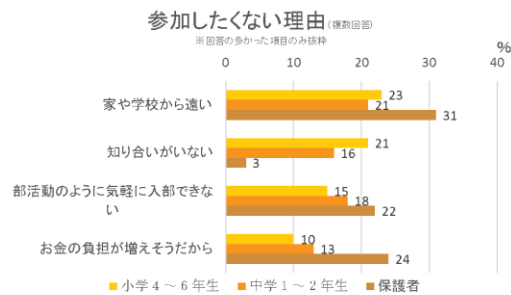
## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

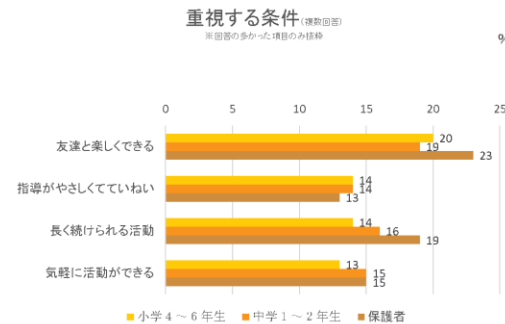
Q.地域クラブ活動に参加したいか？



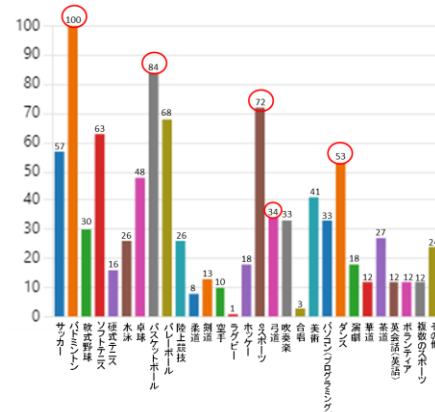
Q.地域クラブ活動に参加したくない理由は何？



Q.部活動や地域クラブ活動で重視する条件？



Q.やってみたい種目は？



### ●参加者の声

#### 中学生

部活動の地域移行については全く問題はないけど、活動時間についてどうするのが、とても不安です。

#### 中学生

中学生は競技力と人間関係など生徒指導面もあり、その両面ができる指導者を確保していかないとトラブルが沢山起こると思います。

#### 保護者

親の仕事や、金銭的な理由でやりたいのに部活ができなくなることは、子どもの成長に大きく影響すると思うので心配です。子どもたちが平等に参加するかどうか選ぶ権利があることを望みます。

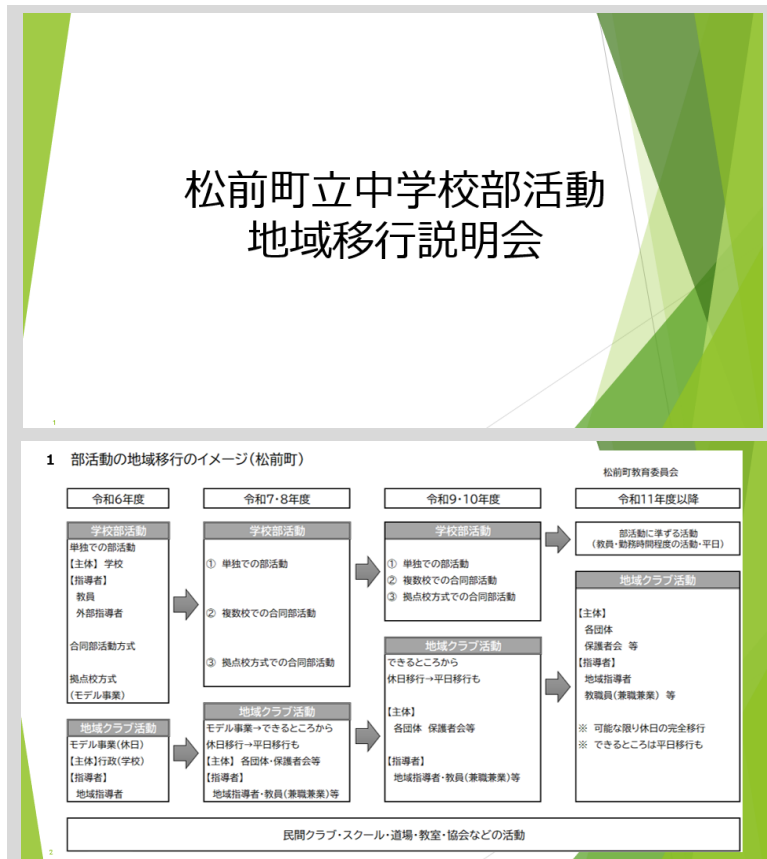
#### 保護者

有資格者、専門性のある指導者の下、活動できる環境を設ける事が出来るのであれば嬉しいです。ただ、部活動→地域移行した際、練習場所の確保が難しくならないか気になります。

## アンケート結果・広報資料

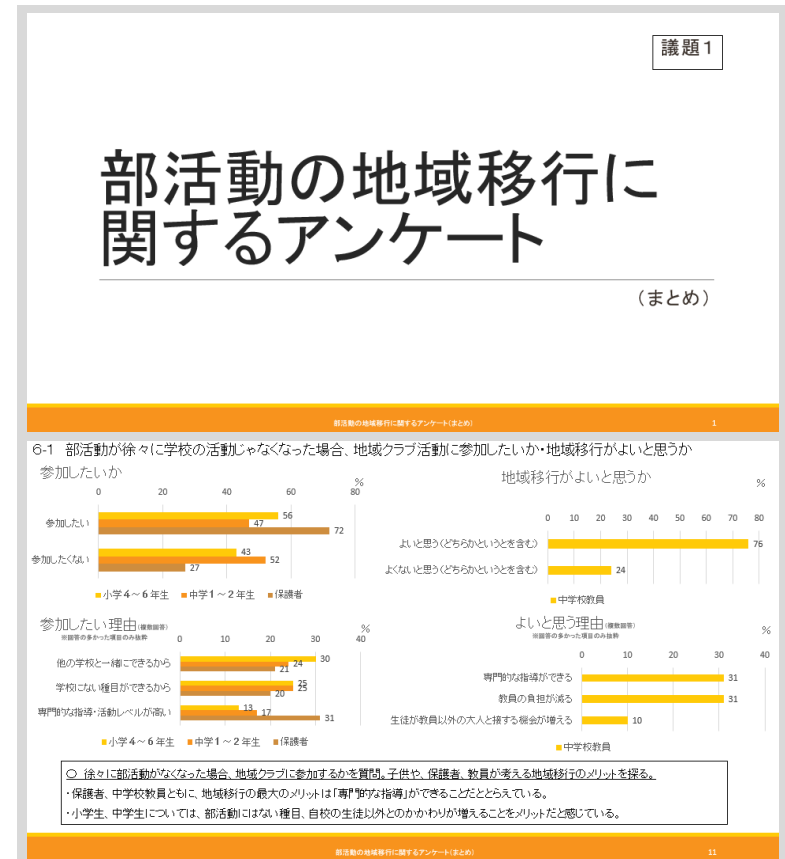
令和7年1月に新中学一年生とその保護者並びに地域住民を対象に説明会を開いた。

令和6年6月に中学校1～2年生547人、小学校4～6年生879人、中学校教員76人、保護者1,426人を対象としたアンケートを行った。結果、71%の方から回答が得られた。



【生徒への参加啓発チラシ】

出典:松前町教育委員会



【アンケート結果】

出典:松前町教育委員会

### 参考資料（活動写真）



【ホッケークラブ活動の様子】



【ホッケーを指導する地域指導者】

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

検討委員会設置、検討開始

モデル事業実施クラブと指導者の選定

学校現場との調整

令和6年

生徒、保護者等へのアンケート

令和7年

地域クラブ活動の開始

令和7年～

地域クラブ活動の拡大

#### ●ステークホルダー

指導者

#### ●経過

ホッケー、ソフトテニスともに令和5年度から令和6年度にかけてモデル事業を実施する。

#### ●実施にあたって生じた課題

補助事業の活用を前提とした指導者謝金の支払いについての持続可能性。

#### ●実施内容、工夫した点等

毎月の活動報告書に通信欄を設けて、実施にあたって生じた問題を把握する。

#### ●ステークホルダー

学校

#### ●経過

令和5年度より学校を利用して休日は地域クラブ活動のモデル事業を実施。平日は部活動。

#### ●実施にあたって生じた課題

他校の生徒を受け入れるとした場合の調整（実際には他校生徒なし）。

#### ●実施内容、工夫した点等

町内3校の先生方に集まっていたが、地域移行（展開）の協議を定期的に実施。

#### ●ステークホルダー

生徒・保護者

#### ●経過

平日は部活動を行い、メンバーは変わらず休日は地域クラブ活動を行った。

#### ●実施にあたって生じた課題

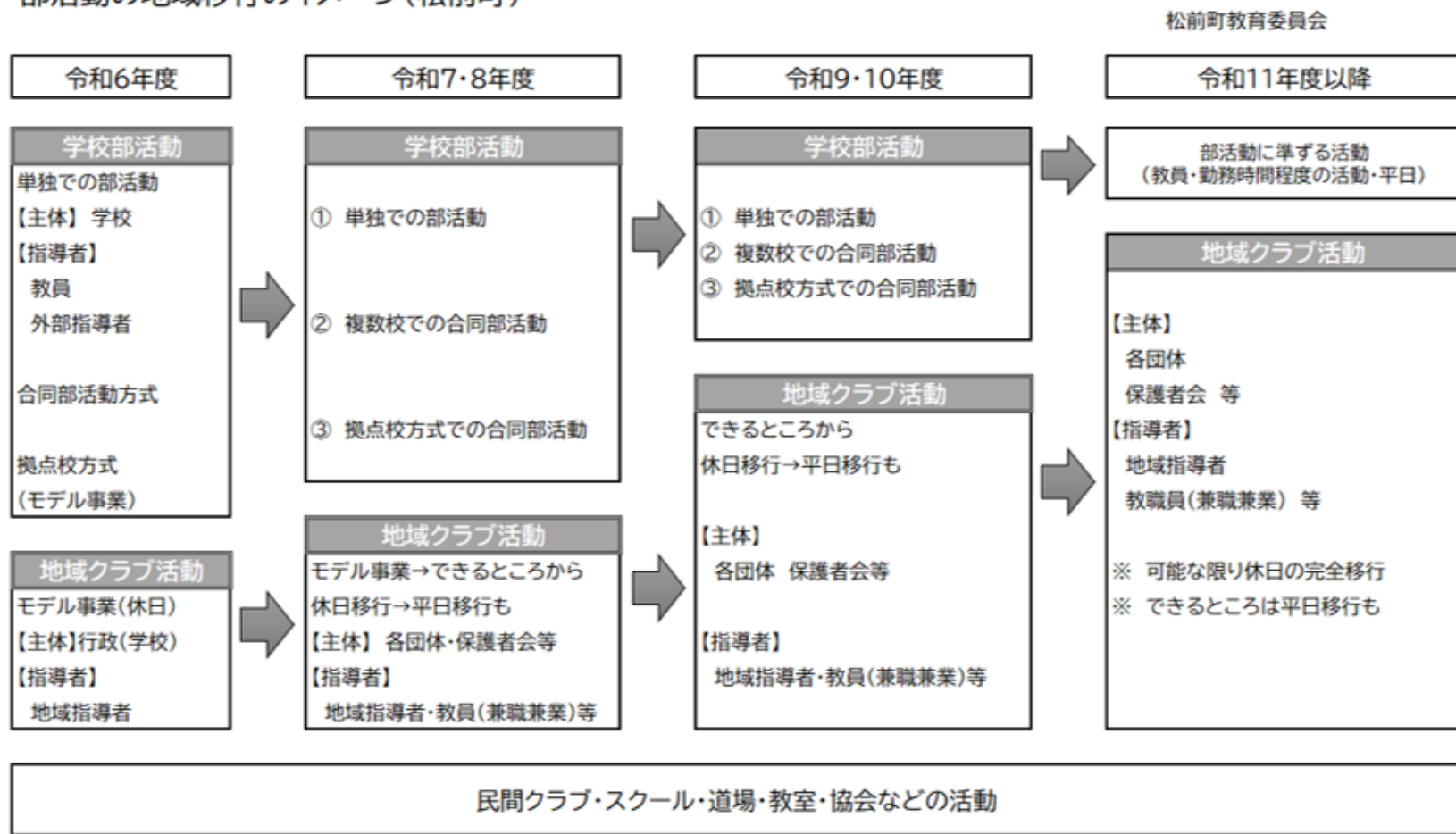
指導者が部活動と地域クラブ活動で異なることにより、連絡体制等で混乱があった。

#### ●実施内容、工夫した点等

平日には地域指導者が部活動の外部指導者をつとめることにより、ある程度の混乱は解消した。

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

### 1 部活動の地域移行のイメージ(松前町)



令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 愛媛県 伊方町

自治体名：愛媛県 伊方町

担当課名：伊方町教育委員会事務局 学校教育係

電話番号：0894-38-2660

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	93.98 km <sup>2</sup>
人口	7807 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	138 人
部活動数	6 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定予定

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当町の運動部活動は、軟式野球部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、男子卓球部（2）、女子卓球部の6つが活動している。

町内中学校では、生徒数の減少に伴う学校の小規模化、部活動の存続、部活動の選択肢の減少などの課題を抱え、生徒の興味・関心に応じた部活動の設置・運営に困難な状況が生じている。そこで、町教育委員会では、各中学校と検討した結果、町内中学生にとって望ましい活動が展開されるように、新しい部活動の在り方を創造する方策の一つとして「拠点校方式による部活動」を令和6年度より実施している。

町内中学校区間の移動所要時間が長いところでは1時間程度かかる上に、学校によって部活動の実情が異なるため、町として画一的な地域移行のモデルを確立することは難しい現状がある。また、地域クラブ活動指導者やその運営団体を確保すること、指導者の質の担保が難しい。そこで、地域移行推進にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の掘り起こし、確保も同時に進めていかなければならない。

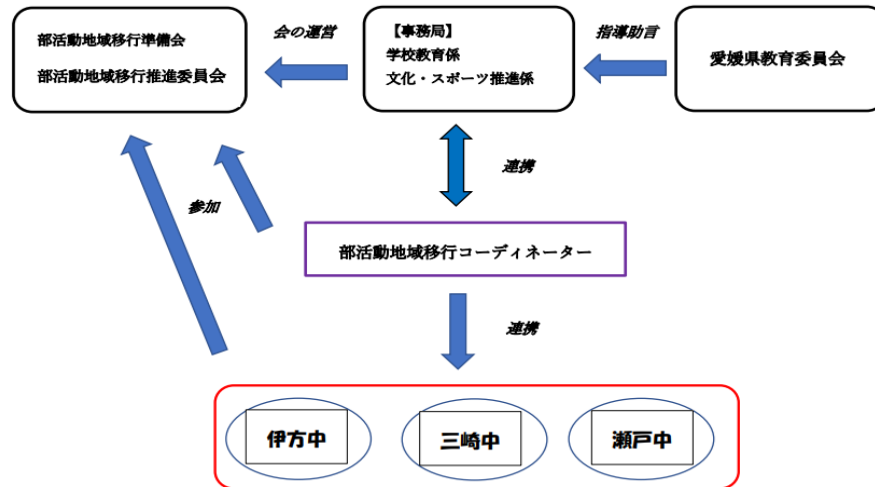
※

種 目	拠点校(対象校)	主な練習場所(金・土)
男子卓球部	三崎中(瀬戸中)	三崎中
男子バレー部	瀬戸中(三崎中・伊方中)	瀬戸中
女子卓球部	三崎中(瀬戸中・伊方中)	瀬戸中
女子バレー部	伊方中(三崎中・瀬戸中)	伊方中
野球部	伊方中(三崎中・瀬戸中)	伊方中
フラスバンド部	伊方中(三崎中・瀬戸中)	伊方中
男子卓球部	伊方中のみ	伊方中

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・学校教育係において、部活動地域移行準備会を設置する。関係諸団体および関係者との連絡・調整を行う。
- ・文化・スポーツ推進係を中心に人材バンクを作成し、人材の確保に努める。また、部活動地域移行推進委員会を開催し、部活動指導者の協力を求める。

##### ◎首長部局

- ・部活動地域移行推進委員として、連携・協力していく。

### 年間の事業スケジュール

令和5年5月	部活動に関するアンケート実施 (児童・生徒、教員、保護者対象)
令和5年8月	部活動地域移行に関する検討会 (8月、11月、12月、1月の計4回)
令和6年4月	拠点校部活動開始
令和6年5月	部活動地域移行準備会 (5月、6月、8月、10月、12月、1月、3月の計7回)
令和7年1月	部活動地域移行推進委員会

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	1人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
いかた卓球クラブ	伊方町教育委員会	卓球	月1回から3回程度	9:00 ～ 11:00	3年 5人 2年 9人 1年 11人	5月1日 ～ 2月28日	伊方中学校	2人	1人 (内、兼務なし)	月会費 0円 ／ 年会費 0円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

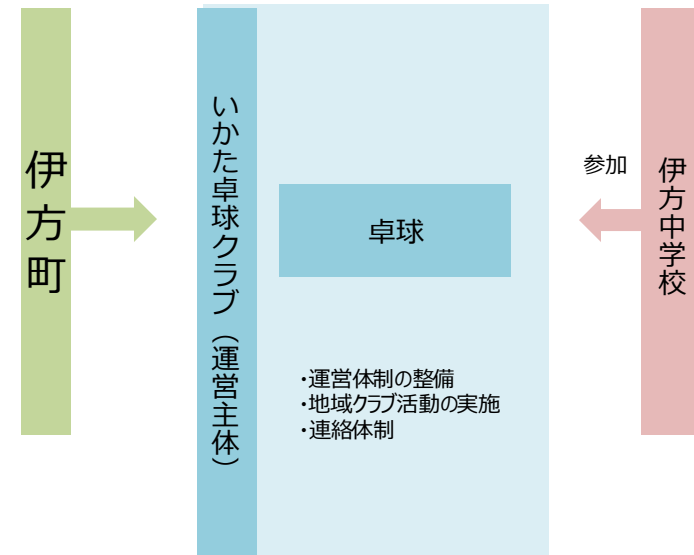
- 特になし

## 主な取組例

### ●青葉スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球
運営団体名	いかた卓球クラブ
期間と日数	5月1日～2月28日 月1～3回程度
指導者の主な属性	元中学校教員
活動場所	伊方中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、スクールバス
1人あたりの参加会費等(年額)	卓球：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：0円/年 指導者1人あたり：0円/年

### ●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者(教員) ※卓球部顧問  
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 部活動指導員(会計年度職員) 1名  
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

## 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

令和6年10月より教育委員会（事務局）にコーディネーターを配置し、部活動地域移行に向けて取り組むこととした。  
（導入費用 222千円）

##### 取組の成果

部活動地域移行準備会を定期的を開催し、各中学校長や教育委員会関係者で情報交換を行い、今後の方向性等について話し合った。また、1月に部活動地域移行推進委員会を開催し、町内の関係者に集まっていただき、連携・強化に努めることができた。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

- 部活動地域移行準備会の準備及び運営
- 部活動地域移行推進委員会の準備及び運営
- 町内中学校との協力・連携等

##### 今後の課題と対応方針

- 今後は、コーディネーターを中心に、関係者との連絡調整等をさらに密にし、休日の地域移行に向けて邁進していきたい。また、地域移行に対する啓発等も不足しているため、様々な機会をとらえ、理解を得られるように努めたい。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

## イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

##### 取組事項

- 文化・スポーツ推進係とも連携し、指導者となり得る人材を発掘する。
- 教職員等にアンケートを実施し、休日における兼職兼業希望者の実態を把握する。
- 部活動指導者を対象に資格取得に要する経費を全額支給する。

##### 取組の成果

- 部活動指導員 1名（男子卓球）
- 教職員の兼職兼業希望者 10名  
⇒ 資格取得希望者 7名（既資格取得者 2名）
- 資格取得者（ジュニア・ユース スタートコーチ） 7名
- 部活動指導員希望者（地域の方）  
⇒ 資格取得者（ジュニア・ユース スタートコーチ） 1名  
（導入費用：453千円）

### アンケート

#### 部活動地域移行に関する兼職兼業希望調査について【依頼】

( ) 小・中学校 名前 ( )

この調査は、中学校の部活動地域移行に関する参考資料として活用させていただくものです。現在の指導者確保の観点から、教員（常勤・非常勤）及び事務職員等の兼職兼業希望について、下記の質問にご回答ください。なお、この調査結果については、個人が特定されるようなことはありませんので、ご了承ください。

記

① 部活動が地域に移行した場合、兼職兼業として関わりたいですか。

1 はい 2 いいえ

② ①ではいと回答された方は、どのような種目の部活動に関わりたいですか。

【複数回答可】

(例) 卓球

① ②  
③ ④

【兼職兼業の法的根拠】

地方公務員法第38条や教育公務員法特例法第17条等の規定に基づき、服務を監督する教育委員会の許可を得た場合には、兼職兼業を行うことが可能である。

【兼職兼業の場合の支払い金額】

※土日に勤務した場合 1時間単価(1300円) × 勤務時間

通勤費支給(自宅から学校まで)

(例) 4時間勤務した場合 1300円 × 4時間 = 5200円 + 通勤費

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実 / カ：参加費用負担の支援等

##### 取組の成果（オ）

当初計画では、実施予定だったが、結果として実施できなかった。

##### 今後の課題と対応方針（オ）

令和5年7月に部活動に関する意識調査を実施した。対象は、児童（5・6年）、生徒（1～3年）、保護者（5年～中学3年）、教職員である。当初は、アンケート結果等を参考に、内容の充実を図る予定だったが、アンケート結果においても多種多様な意見が多く、集約するのに困難だった。今後は、再度、現場（生徒・教師・部活動指導員・保護者等）の声を参考にし、部活動地域移行準備委員会にて、検討を重ね内容の充実について、取り組んでいきたい。

##### 取組の成果（カ）

当初計画では、実施予定だったが、結果として実施できなかった。

##### 今後の課題と対応方針（カ）

地域スポーツクラブ活動の運営や指導者配置等に必要なコストを検証し、受益者負担等と公的資金との適切なバランスを含めた収支構造を検討する。

##### 取組事項（キ）

当初計画では、実施予定だったが、結果として実施できなかった。

##### 取組の成果（キ）

現在は、中学校の施設を活用して活動を行っている。（1クラブのみ）今後地域クラブ化が進むと活動場所も多様になるため、検討する。

##### 今後の課題と対応方針（キ）

・地域スポーツクラブ活動のために、施設等を使用する場合の使用料減免等の仕組みを検討。  
・教員以外の指導者による鍵の管理等の方策など、学校施設を使用した

活動をする際の、学校施設・設備、備品等の使用ルールを策定する。  
・学校および教員の理解に努めながら、学校施設等の適切な使用方法について検討を行う。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

今年度は、実質9月から地域スポーツクラブ活動体制整備事業に取り組んだ。そのため、計画的に事業を進めることが困難だった。しかし、部活動地域移行に向けて、本町に部活動地域移行コーディネーターを配置し、体制を整えていく一歩となった。

現在は、本町の部活動の地域移行の在り方について、関係各位等との話し合いを行い、最善の方向性へとつながるように検討を重ねている。今後も、着実に推進できるように、取り組んでいく。

#### ●成果の評価

- 令和6年10月より教育委員会（事務局）にコーディネーターを配置し、部活動地域移行に向けて取り組むこととした。
- 部活動指導者を対象に資格取得に要する経費を全額支給した。（今年度は8名に支給）

#### ●今後に向けて

- ・ 休日の部活動地域移行に向けて、指導者の確保等に努めていく。併せて、指導者資格についても継続的に推進していきたい。
- ・ 休日の部活動地域移行に向けて、教職員の兼職兼業も含めて少しずつでも展開させていきたい。

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【ミーティングの様子】



【練習風景】



【大会の様子】

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体、首長部局、町教委、コーディネーター

#### ●経過

令和5年度より検討委員会を設置し、現在の部活動の在り方等について検討を重ねてきた。令和6年度より準備委員会を設置し、地域移行に向けて取り組んできた。実際には、積極的な展開とはいかなかったが、令和7年度以降に向けて、関係各者との協議を継続的に重ねている。

#### ●実施にあたって生じた課題

今後は、コーディネーターを中心に、関係者との連絡調整等をさらに密にし、休日の地域移行に向けて推進していきたい。また、地域移行に対する啓発等も不足しているため、様々な機会をとらえ、理解を得られるように努めたい。

#### ●実施内容、工夫した点等

令和6年10月より教育委員会（事務局）にコーディネーターを配置し、部活動地域移行に向けて取り組むこととした。  
部活動指導者を対象に資格取得に要する経費を全額支給した。（今年度は8名に支給）

#### ●今後の展開

休日の部活動地域移行に向けて、指導者の確保等に努めていく。併せて、指導者資格についても継続的に推進していきたい。  
休日の部活動地域移行に向けて、教職員の兼職兼業も含めて少しずつでも展開させていきたい。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

移行スケジュール（案）

